

中世曹洞宗における本参資料研究序説（四）

——夜参と三位の透句を中心として（上）——

飯塚大 展

一、はじめに

峨山関連抄物が、未だ資料批判が十分にはなされていないのではないかという問題提起は石川力山氏によって既に指摘されており、私も同様の印象を持つている。前稿においては、峨山関連抄物の相伝の系譜と受容過程とを明らかにすることによって、道元以降の林下曹洞宗の教学的変容を跡づける作業を試みたのであるが、もつともそれを私になし得たかという⁽¹⁾と大いに疑問が残る。仮に室町時代に限って言えば、林下曹洞宗の仏教学的背景を考察する際には、所謂公案禅を標榜したとされる林下諸派との比較検討が前提とされるべきではあるが、第一に瑩山・峨山以降一体どのような展開があったのか⁽²⁾が当然問題とされねばならない。そこで、前稿では「報恩録」と「山雲海月」（及び「峨山和尚法語」）との関係性を指摘すると共に、両者に共通する法語「峨山和尚一枚法語」を

取り上げ、それらが切紙や本参資料の中でどのような受容されてきたのかを、きわめて雑駁ではあるが、指摘した。またそこには「曹洞三位」説が用いられており、それは後に本参資料（切紙の参を含む）の大きな比重を占めるに到る。同様に周知のことではあるが、これらの資料には「曹洞五位」説が用いられているのであり、道元の思想の継承と乖離、あるいは変容といった問題が内在していると言える。現時点においてこれらの問題は必ずしも明確化されているとは言えない。これらの資料における峨山派下の教学的背景をどのようにとらえるべきなのかは、私にはあまりに漠然としており、到底その全体像を描き出すことはできない。石屋派の寺院である円応寺に所蔵されている禅籍抄物については、前述の石川氏によって既に紹介されていたものばかりであるが、峨山派下通幻寂霊の弟子である、了庵慧明、石屋真梁をそれぞれに派祖とする両派の比較検討する上で、必要であると考え、その

幾つかの全文を翻刻紹介させていた。

本稿においては、前稿で取り上げた夜参(三位)の資料(『靈機宏聖道三位之次第』)との連関から、龍泰寺所蔵『宗門之一大事因縁』及び叡山文庫所蔵『宗門密参』とを紹介したいと考えている。それは、透句の体系としての「曹洞三位」説の受容であり、これらの資料を通して、切紙・本参資料は本より、代語・代語抄との関連性について考察してみたいと考えるからである。

二、夜参と「曹洞三位」説について

「曹洞三位」説については、影印資料としては早くから金田弘氏によって長年寺所蔵の本参が紹介されていたが、その内容について本格的に考察を加えたのが安藤嘉則氏の一連の論稿である。また、切紙資料を中心に本参資料をも含めて論じたのが石川力山氏であり、本稿においても石川氏の紹介された資料に依りながら考察してみたい。駒澤大学図書館所蔵『室中切紙』(永正十三一五一六)年成立、寛永十九年写、一冊)所収の「○嗣書諸目録之切紙」には、「三位」および「夜参」に関する切紙の項目として次のようなものが見える。

「無極授月江記文夜参之図 三枚統ノ紙也」

「三位之次第并月箇箇伝 二枚也」

「夜参廿八透 一冊、此内一透ハ秘極也」

「夜参出標」

群馬県長年寺所蔵の一冊(無題)に、夜参並びに三位に関する内容を中心とするものがある。その内容は、①「永平道元和尚一枚法語」②「無極派嗣書仁添目録次第」③「無極授月江記文」④「宗門夜参七透之作法」(密山派)⑤「一州派参禅目録」から成る。

②の「無極一派切紙之目録」には「夜参作法」「夜参行作法」の夜参に関する切紙が見られる。また、三位の本参に関する由緒を語るの③である。この部分は石川氏によって紹介された永光寺切紙と同内容のものであるが、以下に掲げる。

〔無極授月江記文〕

月江正文首座欲坂東下向、辞無極和尚、令入夜半丈室、戒文傳書卷傳給。重付語云、坂東於自門佗門尊宿之隣風、有坐百戰場、中吾宗旨荷擔、自他莫受、罵謗、一宗圍密而、可為樞要一派。洪分而清、濁、合混淺深底淵、眼不眨、不容他柄杓、一不不受派脉、到末代長流而莫令斷絶。旃以長養工夫、十二時中三昧王三昧、或向書籍、莫專世邊。再會難期。淚流給、良絶待對久矣。淚留云、先師無着和尚有謂、日本國中曹洞宗堂頭和尚閱量、懷臆、紫衣黃衣、或受先王脈、坐崇樓廣殿、互罵、嚙諸方大善知識、唯我獨万能法尊為足。師自謾雖立法幢、曹洞秘極十分之一不會。吾先師祖翁無底和尚、無眼為人天導師事、哀愍、遙聞、天童雲外岫和尚、藥山和尚再来、宏智正覺禪師六世之孫、為在百十二年浮世相送、俊邁、衲子、曹洞之綱師、大唐日本無双。予入而九月十日掛錫。就玄芳首座入室請参

訣、十日餘、其無許室。一日在客寮打睡時、雲外和尚於庭中、以竹篋打童子。我走進童子背上重覆。師如揮閔將軍秋水作勢、不眨眼、打三下踏躍云、日本小子的當一句作麼生。我擬開口。師重莫頭蹴却云、童子救得、外国之小子救不得。云畢歸方丈。我最初一句三年折鋒。再成平賓、客難行、一衣可携、無緣方、一水不甘、為道送光陰、紙々自然調殘軀、一十三歲之間、明證八種自己、八種智不到、八種那邊那時誦訛妙訣、廿五種良久品樣、十二種之參數旨畢、欲歸朝、曉、師囑我云、日本之人根器踈短而無堪忍。精以三種根器可定其人。驚頭莫印可、亦不可寄年多少。為實頭人、繫縛他家莫回首。此故古人云、不重其人。唯有其人。曹山不道麼。根基牢實、血脉貫通、金鎖連環、相續不斷。亦南嶽讓和尚云、仏祖命脉、莫論少季、依實正人、扶起家門。馬祖二十九印可、你歸朝、如斯選實頭人、綿密相續五家、家風細密、言行相應、道學書讀、旨趣之人、思之見之被仰。自筆之十八般妙語并自家訓訣傳給也。歸朝而九刀薩摩赤幡山三年引籠、純精行業、打成一片也。雖然如是、我猶未宗乘事相酬。承聞、洞谷明峰禪師曹山本寂禪師再誕。宗門圓極訣旨為醫法。欲相看、出赤幢山、移洞谷、就大智首座掛錫。其問答具行狀出之。七年之間明峰和尚膝下不離、胸次量法界、其不知邊。此故古人云、大海底深易弁、衲子法海難明、云云。大智和尚奉蒙指南、窮明峰和尚法海。雲外禪師猶以細密也。五家七家之事。取掌上、自日月明潔也。天童宏智・長蘆真歇兩派源脉、度量了、亦峨山・明峰兄弟要訣不及揚數、一々傳來、鼻孔遼天。大宋日本無雙、為師家闢法、云々。我曾八歲而登東林寺、為丫角童子、無着和尚奉養、長專精。十四歲落髮受衣具戒。自十五歲到三十六歲迄、晝夜影與形奉隨身申。無着和尚之胸次淵源、證得大乘円極・向上爪牙・法身種實。耳目

熟而耳。你一々無圓欠方隅、為大家棟梁。句々言々、無骨薰。不遺授畢、今既罷参衲僧。雖然坂東下向接取一箇半个、本参次第如是、可得参透。

- (1) 死活当頭一句子、(2) 轉凡入聖自己、(3) 自己轉處、
 - (4) 自己不轉、(5) 自己不轉點、(6) 自己醒處、
 - (7) 自己目前兩墀隔、(8) 自己目前一致、(9) 自己真照淵源
 - (10) 毫釐功之迷、(11) 智不到一句子、(12) 智不到功位迷、
 - (13) 清白圓明智不到、(14) 智不到轉處、(15) 智不到不轉、
 - (16) 智不到不轉々々、(17) 智不到異弁眼、(18) 功位路玄通處、
 - (19) 那邊承當、(20) 那邊透過、(21) 那邊躰得這裡行履、
 - (22) 阿誰勘弁、(23) 那時三人主勘弁、(24) 那時窮極、
 - (25) 位裡轉側、(26) 裡頭却來、(27) 偏正一致、
 - (28) 目前轉側、(29) 外頭却來、(30) 那邊退得這裡安李、
 - (31) 衲僧本分行李、(32) 衲僧要活、(33) 衲僧活要、
- 本参大概如是、於処々類則可引合事、嗣法人在之。

此外夜参訣、甘透樣勝、概目錄出之、別旨可参了。亦云、你夜参作法可什麼也無、江答云、九夜透唯出、句以三可三行申、云云。無極歡喜而、吾宗到汝大繁興。了庵之宗梁万家可。按、月江正文江参 無極慧徹在判

この無極慧徹から月江正文に与えられたとされる記文は、その内容がたとえ荒唐無稽のものとしても、本参・切紙においては「曹洞三位」説の根拠として用いられてきた。上記の記述に依れば、無極は、まさに会下を離れ坂東(関東)に下つて行こうとする法嗣月江に対して、その教化に用いるべき本参として上記の三位の次第を指し示したとされる。無極の師

無著妙融（一三三三〜一三九三）は、現今の曹洞派下の諸師は、名聞利養に走り、自己の見解を誇り我慢を長じているが、曹洞宗旨の秘極にはその十分の一すら会得してはいないと批判して、以下のことを語ったという。無底良韶（一二二六〜一三六二）は、雲外雲岫（一二四二〜一三二四）会下の玄芳首座に参じ、「八種自己、八種智不到、八種那邊時諍訛妙訣、廿五種良久品様、十二種之参數」の旨を得ると共に、また「三種の根器を以てその人を定」むべきことを指示されたと思われる。おそらくこれが、「曹洞三位」説の渊源とされるのであろう。更に無底は、明峰素哲会下の大智首座に参ずる事によつて、中国の宏智・真歇両派の源脈を踏まえると共に、日本の峨山・明峰両派の要訣を体得したという。このような相伝の系譜を持つ本参が、「曹洞三位」であるとされるが、上記の項目を拈提する切紙に永光寺蔵「月江派参話」があり、長年寺にも類似の内容を持つ本参が現存する。長年寺の本参には、「無極授月江記文」の項目の内、波線を付した項目が欠けているが、一方で「妄智寂三関」「自己畢竟ノ轉処」の二項目は、永光寺所蔵の「記文」には見られない。この本参は、既に金田弘氏によつて影印紹介されている資料であるが、⁽⁶⁾以下に全文を掲げる。

長年寺所蔵の本参には、天産受連（——天正十年へ一五八二）相伝関連の者が比較的多く見られるが、この三位の本参

は、各項目に対する句が一つもしくは二つであり、又、拶語を通しての師資問答の形式も他のそれに比して簡略である。

一洲派総領家残之

花押

- (1) 死活當頭。
- (2) 根器有リニ修行ニ。拳シ□、不定、時節因縁ヲ以ス。
- (3) 自己轉処。
- (4) 玉輪機轉笑呵々、直下相逢テ不相識。云、何ヲ笑タソ。云、不覺笑テ走。又、相逢テ知ルハ、笑シウ走。
- (5) 自己ノ不轉ヲ。
- (6) 十世古今始終不離當念。又、不離當処常但然。
- (7) 自己醒処ヲ。
- (8) 長連上床伸兩脚。又、日朝一喰、夜後一睡。
- (9) 自己目前兩墀隔ヲ。
- (10) 本位ノ内ニ有自己、本位全ク自己ノ力ヲ借り走ヌ。
- (11) 自己目前一致ヲ。
- (12) 色即空。又、十方虚空只是十方虚空。又、尽十方只是尽十方。妄智寂三関ヲ。
- (13) 自己ヲ尽ク妄ト見テ走。寂ノ生シ用ヲ。洞然明白。云、智ヲ。
- (14) 法身カ智テ走。云、ドレカ洞然、ドレカ明白タソ。云、寂カ洞然、智カ明白テ走。云、修行ヲ。但莫憎愛、洞然明白。
- (15) 自己畢竟ノ轉処ヲ。
- (16) 見自己如冤家。拶云、冤家ト見タラバ、透ラレマイソ。云、有時垂江月——湧。
- (17) 自己真照渊源。
- (18) 山虚風落石——門。拶云、マダモ人近イソ。菩提本無樹。毫釐功之迷。

- (11) 白日ガ青天、々々白日テ走。云、着語ヲ。真智利群生。云、ソレヲ分ヨ。云、真智ハ青天不尽、白日群生テ走。智不到之一句ヲ。
- (12) 師ノ面前ヲ只過クル。拶云、什麼物カ恁麼来。云、不知。又云、何トテ不知テハアルソ。不會々々。又云、何トテ不會テハアルソ。深固幽遠——到。又云、何カ、此儘テハ置ソ。云、シリ走ヌ。
- (13) 智不到功位ノ迷ヲ。去時踏雪——功。清白圓明智不到ヲ。月明月不知秋。
- (14) 智不到ノ轉処ヲ。揭開金鎖——異。
- (15) 智不到ノ不轉ヲ。尽以胸次洩源地、始威顏對咫尺天。
- (16) 智不到不轉之轉ヲ。月船不犯——峯。
- (17) 智不到異弁眼。葵花向日、柳絮對風。又、瞎絮不受灵山機。
- (18) 功位路玄ノ通処同。那边承當ヲ。幻人真識本来先、ト承當_レ走。
- (19) 那边透過ヲ。王不存王位。
- (20) 那边躰得、這裡行履。何処春山不花紅。云、何トテ、ソレカ、行履デワ有ソ。立テモ居テモ、相離レ走ヌ。
- (21) 阿誰勘弁ヲ。

- (22) 笑入芳塵乱——遊。那時三主ノ勘弁ヲ。
- (23) 幻人真人本来人。那時窮リ極位、(24)々裡点側。(25)裡頭之却来ヲ。(密)蜜移一步六門曉、无作風光大地春。
- (26) 偏正一致ヲ。黄河自源頭——了。又、當人何弁濁中清。
- (27) 外頭却来ヲ。拶手那边千聖外。
- (28) 僧本分行履。十二時中出息入息。
- (29) 衲僧要活ヲ。乳ブサヲタ、イテチ吞ウク。
- (30) 衲僧活要ヲ。只死ウマデ走。是ガ、末后ノ句也。存慧長老参 天座受連(花押)

ちなみに、後述する龍泰寺藏『宗門之一大事因縁』においても、「無極授月江記文」に關連して、「畢竟本則引合テ、参禅細密也。夜参行様子ハ、口傳在之。ノ無極慧徹在判ノ附与月江正文首座」と見えるほか、「爰ニ、月江和尚之置文アリ。別紙ニ在ル仍而不書也」と見える。

三、『宗門之一大事因縁』について

龍泰寺所藏『宗門之一大事因縁』については、石川力山氏

の論放があり、その内容については十全なる紹介がなされて
いると言つて過言ではない。本稿で改めて取り上げる理由は、
本書が夜参に用いられた三位説の透句として、その典型的な
資料であると考えたからである。第二には夜参作法面七面透
に対する註釈が含まれており、華叟派における三位(夜参)の
透句を考察する上で重要であると考え、資料編において全文
を翻刻紹介しようとするものである。従つて本書は、一面に
おいて語録抄としての性格も有すると言える。

先ず本書の書冊形式について略述したい。

- 一、冊数 1冊
- 一、料紙 楮紙
- 一、大きさ 縦26・3センチメートル、横20・4センチ
メートル

- 一、装釘 袋綴
- 一、標題 「宗門之一大事因縁」
- 一、枚数 表紙、39丁(本文38丁)
- 一、行字数 每半葉19行、1行29字前後
- 一、刊写 写本
- 一、書写年 慶長十二年(一六〇七)
- 一、筆者 龍泰寺十五中巖正(文)的
- 一、識語等 無極惠徹在判

附与月江正文首座

華叟正尊代々、枝深付与正桃、々々付与正
仙、々々付与正芳、々々付与文的畢、
祥雲山龍泰寺夜参盤之終也、

猖慶長十二年未丁小春吉辰(花押)

次に本書の構成について略述したい。本書はおおまかに言つ
て(一)全体の序、(二)夜参作法面七面透に対する註釈、
(三)愁人三透九頭、(四)快庵派頭聖寺之出句、(五)夜参之
盤へ夜参作法面七面透句に相当、(六)夜参之目錄、(七)
又、夜参之目錄、(八)透句の組み合わせ例、(九)月江和尚
之置文、(十)奥書から成る。

以下に本書の冒頭の部分を掲げて論じてみたい。(一)の全
体の序に相当する部分には、恐らく道元が批判した禅者のあ
り方を的確に言い当てているように思われる。

曹洞宗乗者、石頭一派出タゾ。我カ先祖達磨圓覚大師ヨリ、第六世
惠能大師、五祖ノ弘忍於會裡、確旁行者トナル。昼夜此事ヲ拈得
シテ、喫茶喫飯ノ隙ニダモ、サシラクコトナシ。工夫順熟シテ、自
然ニ根本智ニ透入ス。透入シタト云テ、凡境ヲ打破シテ透入スルニ
アラス。ソツトモ境界ヲ損ザズ、心智ニ當得ス。心智ト者ハ、不
思善不思惡、本来ノ面目ヨ。青原既ニ得此旨、六祖々紹ク。石頭
ハ、又青原ニ承嗣ス。其ノ流レヲ扱タル宗旨ナ呈、毫髪モ違却スベ
カラズ。齏郎當ニ参スル禅者ワ、吾ガ宗旨ニハ、依テモツカヌ事
ヨ。宗旨綿々密々、深々沈々タル唱ラスベキ者ノワ、平生ノ行迹、
平生ノ言語、或ハ乱鳴胡喝モ、盲枷瞎棒(一オ)タグイ、挙取ルベ

カラズ。山ヲ拔キ、鼎ヲ拔キ、大海ヲ折翫シ、五須弥ヲ躍倒スル底ノ手段モ、平生喫茶喫飯ノ上ニモ有ルベシ。アナガチニ拳ヲ握テ、脇下ヲ築キ、足ヲ擡ゲテ、劈面ニ来タシ、或ハ威ヲ振テ喝シ、或ハ威ヲ振テ棒ス。大クハ邪魔ノ眷屬タルベシ。古人万ガ一如此ノ見解ヲ具スルヲモ、日本初祖永平道元和尚深ク是レヲナジル。況ヤ後学末代ノ沙門餘智不_レ忘_セ、不_レ脱_ニ識智_ヲ、從_レ如此見解ヲナサバ、入_ニ地獄_ニ如_ク箭_ヲナランノミナラズ、正法ヲ喪_ス者也。末世濁乱ノ末エニ生ル根器如_ク夢幻_ヲナラン者ハ、只古人ノ旧規ヲ守テ坐禪シ、十二時中此ノ事ヲ念トシテ、身心脱落スベシ。身心既ニ脱落シツレバ、向上・向下・中道、五位君臣、偏正回互、尽ク通貫セスト云コト無_ク故ニ、永平和尚於_テ天童_ニ、此ノ身心ヲ脱落ス。已前ニ、建仁開山、敵_{シテ}和尚ニ參シテ已後、渡唐ノ時キ、(一ウ)弟子明全和尚ヲ拜シテ、既ニ血合嗣法ノ旨子、其ノカクレ無シ。雖然未_レ身心不_レ脱落レバコソ、於_テ天童山_ニ、打眠ノ次ニハ、脱落ノ時節ニ相イマシクツラウ。只夕見タル処、聞イタル処ハ少シ。子ヘシケナリ共、常眉ヲシワメテ、外塵ニフケラスンバ、一度出期ノ時節アルベシ。第一此ノ身心脱落ヲ可_レ參者也。古人ノ云、三世心尽、表裡情忘、真常体霧、即如々仏ト、此一句ニ三位ガ走ゾ。參禪分明ナラズ、吾宗ノ種草トナルニタエタリ。然、百千公案ヲ透過シテ、師資互ニ受_ニ衣鉢_ニ一_ニ大事ヲ印ス。是ヲ種草トナルニタエタリト云々。然後、十年五歳長養ノ工夫順熟シテ、此ノ夜參ノ大因縁ヲ可_レ令_ニ參見_者也。夜參ト者ハ、日本ニ云_ル処ノ語、陸堂、上堂ノアル則ンバ、小參アリ、晩參アリ。日本モ此旨ハアリトイエドモ、靈和尚老後迄、此旨ヲ不_レ許給_ニ。御遷化ノ砌、於_テ青原山永澤寺_ニ行初玉_{エリ}。然、陸堂、上堂無_レ之間、一拶ト号、朝參ト名、晩參ヲ号_ニ夜參_ト云。此大法、嗣法伝底ノ法師、第一人ニ可_レ付者也。然間、自餘、此旨ヲ不_レ許玉。

中世曹洞宗における本参資料研究序説(四)(飯塚)

最乗開山了庵和尚一人付シ玉ヘリ。其ノ餘ノ九派ハ、傍出也。了庵モ又々如此ナルベシ。夜參ト者ハ、密語也、陰法ヲ云也。朝參ト者ハ頭也、陽法也。陰陽ニ比シタト云テ、陰氣陽光屬シタトミベカラズ。其ノ言ヲ借也。朝參ハ、頭法ナルガ故ニ、時々回互ノ幾可有。夜參ト者ハ、密語ナル呈、時々不回互ノ幾アルベシ。只サシラカズ、此ノ書ヲミテ、工夫領解スベキ者也。

波線部分に關して、道元の主張を要約して言えば、日常の言語や行跡を離れた「乱鳴胡喝」「盲枷瞎棒ノタグイ」は批判されており、「山ヲ拔キ、鼎ヲ拔キ、大海ヲ折翫シ、五須弥ヲ躍倒スル底ノ手段」を用いる大機大用のあり方も、「平生喫茶喫飯ノ上」(日常の生活の中)で実現されるべきものとされている。「心身脱落」(悟りを開くこと)の意味づけに關しては、解枳上異論が生じるかもしれないが、末世濁乱の世に生まれた拙劣の根器の輩は、古人の旧規を遵守して、只管に坐禪を行じ、常に一大事因縁を念頭に置くならば、必ず悟りを開くことができるし、その得悟の者は「向上向下中道・五位君臣・偏正回互」といった機関に通達しないはずがないとする。

傍線部分は、日本における夜參の淵源、及びそのあり得べき姿が論じられているので、略述してみたい。ここでは公案に參することは否定されておらず、むしろ前提とされている。夜參に關して言えば、「百千公案」を透過して嗣法・印証をうけて後、五年乃至十年といった「(聖胎)長養ノ工夫」(悟後の修行)を経て、初めて參すべきものとして位置づけられている。

又、日本における夜参の起源について、夜参は通幻寂靈晩年に到るまで禁止されていたが、遷化の折「青原山永澤寺」において初めて行じられたという。夜参の大法は嗣法の弟子一人に伝授されるべきものであり、それは通幻から「最乗開山了庵(慧明)和尚」只一人に付与され、外の九派には伝授されなかつたとする。ちなみに、この相伝の系譜は、本参・切紙資料の外、代語抄等にも散見しており、了庵派下の正統性を主張する際の論拠とされることがある。又、夜参と朝参とは、一對のものとして位置づけられる。

次に、(二)夜参作法面七面透に対する註釈、(五)夜参之盤へ夜参作法面七面透句に相当の二項目について述べてみたい。前述の長年寺蔵の夜参関連の書にも、「宗門夜参七透之作法」が収載されていたが、切紙資料にも同内容のものを見出すことができる。実は以下に引用する永光寺所蔵切紙の内容は(五)夜参之盤と同じものである。(二)夜参作法面七面透に対する註釈は、夜参七透二十一の筋目に配当された透句の注釈がなされており、本書の中心部分といってよいかと思われる。

(包紙) 夜参作法面七通

○夜参作法面七面透之分

(1) ○一透之初

〔本初〕案山點頭、同鉄樹放開花、同犢牛兒生、①○転凡入聖用之

寂靈在判

〔本中〕丹鳳不栖梧、同白雲切一秀、同玉籠飛一兒、同木人功尽一針、同夜船撥一地、同玉馬過一夜、同揭開金一異、

②○転功就位之旨、

〔本後〕透過那辺、有出身路、同瑠璃殿一碎、同高僧不一台、同累垂鼻一尺、同現長三一誰、同金堂一深、

③○位裡不能収之透、

(2) ○二透之初

〔本初〕万機休罷、千聖不携、同如薪尽火滅、同指頭築破痛連身、同家破人忘、同蛇脱一骨、同一死更一活、

④○人境双忘之筋目

〔本中〕寒炉無火、独臥虚堂、同唯独自明一不見、同深固幽一到、同深径苔生、

〔本後〕宝殿無人不侍立、不種梧桐免鳳来、同苔封宝一侍、同玉殿苔生、同臣主相一寒、

⑥○臣主双忘之透、

(3) ○三透之初

〔本初〕湘之南潭之北、同有亦莫将一去、同背触共非、同到江呉一多、同過不及共非、同有不有一無、

⑦○当頭之筋目、

〔本中〕月船不犯東西岸、同古渡無一午、同無影樹一船、

⑧○不犯之旨、

〔本後〕位裡無方偶、同位裡無向背、同瑠璃殿一識、

(4) ○法眼宗一透之初

惠明在判

〔本初〕江国春風吹不起、鳩啼在深花裡、同煩惱即菩提、同常在於一臥、

〔本中〕当処即是風穴城、同瑠璃壺中妙藥、同銀碗裡盛雪、同不離当一然、私云、一色中之異、

〔本後〕天然貴胤本非功、同貴裔非一尊、

⑫〇本有天然主不改之透、

(5) 〇二透之初

〔本初〕 百姓日用不知、同從來俱一名、 ⑬〇六祖道底之筋目、

〔本中〕 月不知明月秋、同脚踏当門一方、 ⑭〇墮之透、

〔本後〕 王不存王位、同 密一旨、 ⑮〇尊貴墮之旨、

(6) 〇三透之初

〔本初〕 尽十方一顆明珠、同坐底坐一当、同石頭大一小、同万里一

条鉄、同三界唯一心、同 取不得捨不得、同法々住自位、

⑯〇絲毫未举揚之透、

〔本中〕 樓閣千家月、江湖万里秋、同円同一録、同十分清白一円

月、同水天難一秋、同古渡風清一片秋一照、

⑰〇独之筋目、

〔本後〕 徳合乾坤育勢隆、同王道太一不風流、同王令稍嚴、同妙徳

尊一虚、同縦横妙一化、 ⑱〇王化普通之旨、

(7) 〇对帯之透

〔本初〕 五臺拍手峨帽咲、同張公一醉、同不落不昧、同懷州牛一張、

同水中塩一青、同鏡欠円兮一方、 ⑲〇一位兩位故、

〇兼帯之透、

〔本中〕 野雲横山、秋水就月、同天共白一流、同黒狗欄一騎、同大

陽一夏、 ⑳〇正独不立故、

〇双対之透

〔本後〕 王居門裡、臣不出戸、同唯仏与一尽、同葵花向一風、同領

長三一二寸、同青天白日、㉑退得那辺這裡行覆、他是阿

誰、有一説、路上有花兼一行

從月岑和尚相云之作法

初身心脱落、二照尽体一道、三道身無影像、

初視自己如冤家、二踏断清白十分雪吉、同莫守一色処、三那 一步要

中世曹洞宗における本参資料研究序説(四) (飯塚)

惺々、

〇前慶昌涼室周清叟 在判

于皆大永第六歳二月十日 付総執蔵司

今天文廿一年八月廿二日 付総総知蔵

次に(三) 愁人三透九頭の部分について見てみたい。前稿に

おいて『靈機宏聖道三位之次第』について論述した際にもふ

れたが、夜参の内容は必ずしも「三位」説のみに限定はされ

ていない。三位説に依拠する夜参の資料としては、比較的古

い時期の成立と思われる六地藏寺所蔵『七夜話』(瑚海中冊)

にも、「宏智八句」「宏智四借」「石霜七去」「浮山九帯」「雲

門三句」等の公案の句に対しても参ぜられていた。天真派の

本参である「上々之参得」や大安寺所蔵「本来面目」にも、

「愁人三透九頭」と同内容のものが夜参として用いられている。

「快庵派顕聖寺之出句」についても、快庵派下の拠点寺院

である下野大中寺の末寺にあたる越後顕聖寺において参ぜら

れていた透句の体系であるが、やはり(六) 夜参之目録、(七)

又、夜参之目録、(八) 透句の組み合わせ例等と同様にきわめ

て多様である。顕聖寺には快庵派の本参を始めとして禅籍抄

物が多く所蔵されており、それらの資料と比較検討すべきで

あるが、別の機会に譲り、ここでは触れない。又、(九) 月江

和尚之置文に関しては、前述した通りである。

後に(十) 奥書に関して言えば、本書の相伝の系譜と龍泰寺

後(十) 奥書に関して言えば、本書の相伝の系譜と龍泰寺

歴住の世代とは必ずしも一致しない。本書の奥書には以下の
ような相伝の系譜が記されている。

華叟正尊代々、枝深附与正桃、々々附与正仙、々々附与正
芳、々々附与文的畢。

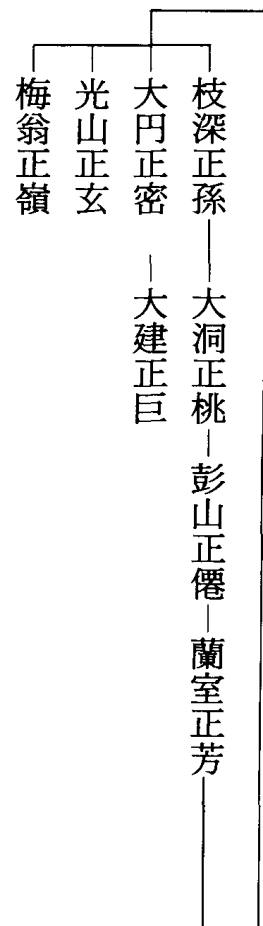
華叟正尊(一世)―枝深正孫(七世)―大洞正桃(十一世)―彭山
正仙(十三世)―蘭室正芳(十四世)―中巖文的(十五世)と次
第する。龍泰寺における室中相伝の書とされる『大陽明安大
師十八般妙語』(元龜三へ一五七二)年成立)が所蔵されてお
り、そこにも以下のような相伝の系譜が記されている。

此旨不有青原一人、自曹溪在合血之因縁得之也。故盧公之
曰、尋思去也。殊知曹溪骨脈、只在吾家、紹弘之惠命、皆各著
清淨衣、坐莊嚴床、応伝此書、秘密化授之所以者何。千聖万
劫難聴、切忌属流布他見矣。道塔記此書、如是伝付而塔付
子淳也。子淳不清了也、清了付宗珪也、宗珪付智鑑也、智鑑付如
淨也、如淨付道元也、道元付壞柴付義介也、義介付紹瑾也、紹瑾付
紹碩也、紹碩、付寂靈也、寂靈付恵明也、恵明付恵徹也、恵徹付
正文也、正文付正岳也、正岳付正裔也、正裔付正亨也、正亨付
嘉也、正賀付正芳也、正芳付正孫也、正孫付正桃也、正桃

これに依れば、月江正文―華叟正岳(尊)―乾叟禅享―蘭
如正嘉(賀)―林叟正芳―枝深正孫―大洞正桃という相承が
なされたする。因みに、歴住の法系を掲げれば次の通りであ
る。

龍泰寺関係法系図

華叟正尊―絶峰祖裔―乾叟禅享―蘭如從賀―林叟正芳
大室祖圭



中巖文的―朝国正補

四、叡山文庫所蔵『宗門密参』について

既に『宗門密参』(真如蔵一一〇九)も含めて、叡山文庫所蔵
の禅籍抄物については金田弘氏の論稿があり、筆者もそれに
触発されながら資料調査を行ってきた。叡山文庫にはきわめ
て多くの仏教書が所蔵されているが、林下各派の禅籍抄物も
少なからず所蔵されている。叡山文庫の禅籍抄物については、
又別の機会に概観したいと考えている。本書の書冊形式は以下の通りである。

- 一、冊数 1冊
- 一、料紙 楮紙
- 一、大きさ 縦14・2センチメートル、横20・1センチ

メートル

一、装釘袋綴

一、標題 「山門東塔南谷 淨教房／宗門密参全／眞如藏 百五十四惟」

扇に「山門本院南谷／淨教坊／宗門密参／實俊」

一、請求番号 眞如藏・24・10・1109

一、枚数 改表紙、46丁（本文44丁）

一、行字数 每半葉11行、1行14字前後

一、刊写 写本

一、書写年 寛永十八（辛巳）（一六四二）八月吉日

一、筆者 豪清

一、識語等 「寛永十癸酉秋初吉日勅／不染道人謹誌」

本書は、以下の記述から、越前国（福井県）宅良慈眼寺開山天真自性を派祖とする、天真派四派の一つ希明派下において参得されてきた「曹洞宗ノ（三位ノ）秘参」であることがわかる。

右此書、曹洞宗秘参ナリ。永平室中不出参也。末派、三位扱イ、サマアレトモ、此ノ筋目参得智識マレナリ。越前ノ国宅良開山天真四派、希明派、此参得流布スルヲ以、山僧潛ニ傳授スルナリ。麁子派无。

又、この一文に続けて、本書が天海蔵（叡山文庫）に帰した

中世曹洞宗における本参資料研究序説（四）（飯塚）

経緯について以下のように述べている。

野僧隱遁、山門三院執行探題大僧正天海和尚位、依御望、不顧法罰、書奉寄附東照宮大権現宝蔵者也。私云、タトイ顯密禪云テ、禪用済家ノ禪一機禪、一句ノ宗風ナリ。故五十二位科段階級違コトナシ。曹洞修行、階級立仍、顯宗用、實正ナリ。殊永平開山、天台教家ヲ極メナガラ、曹洞密意ヲ弘玉ウナリ。至今永平十二時勤行、顯宗ノ古法ヲ不捨、顯ヲ知ラザル曹洞、永平派下アラス、亦曹洞ヲ不知顯ハ天台未裔アラス。顯密禪一致ノ根本極メバ、自立他破、見解ヤメテ、本源尋ヌベシ。何レモ佛心宗ノ極位不二ナリ。殊更永平、祖教不二建立シ玉ウゾ。下聞耻ス、学道ラズベキ人ハ、名利捨テ、学スベシ。名利全ク冥土タヨリニアラス、現在果報ナリ。捨身修行、後生善處ノ種子ナリ。怒ク名利ステベシ。名利ニハ、鉄棒招ゾ。無用一筆ナレトモ、法ヲ惜仍誌之者也。

これに依れば、不染道人（未詳）が既に隠遁していた折り、天海和尚から懇望があつて、法罰をも顧みず、東照宮の法蔵（天海蔵）に寄附したものであることがわかる。又、上記の文において興味深いのは、臨済宗と対比しての曹洞宗の位置づけであり、天台宗（顯宗）との対比における曹洞宗及び道元の位置づけである。臨済宗の宗風は「一機禪、一句ノ宗風」であり、「五十二位ノ科段階級」（修行の階梯）を持たないから「顯密禪」とは言えない。それに対して曹洞宗の修行は、「階級ヲ立ル」ことから顯宗の立場にあるとする。更に曹洞宗は「顯密禪」一致の宗風であるとして、永平寺開山道元は「天台ノ教家ヲ極メナガラ、曹洞ノ密意ヲ弘」めたのであり、そ

の立場は「祖教不二」にあるとする。

本書は、「夜参二十七透」の透句といえるが、本書の構成について以下のように言う。

私云、只ダ三位バカリ扣ク則ンハ、自己モ、智不到、那時、師家ノ手ガラホド、古則引入扣クナリ。ソレハ、独則扱ナリ。サテ、三位首句、三九分則、一段ノテ、修行村ヲヌキ、功作知為タゾ。亦九ツノ首句、廿七分、夜参廿七夜ト云タゾ。向去ガ九段、却来ガ九段、行李ガ九段デ、三九廿七段ナリ。○廿七段五位ツメ、五位三位ツメタ。三位一位ツヅマルゾ。一位、空体ナリ。大陽、玄十八般妙語ヲハ、向去九段、却来九段ナリ。行李、向去九段中含ゾ。宏智和尚八句ハ、前四句向去ナリ。後四句却来ナリ。廓庵、十牛ハ、八牛向去、一牛ハ裡頭ノ却来ナリ。入、鄮垂手、却来ナリ。曹山八圈妙語、七圓、向去也。一圓、却来ナリ。石霜、七去モ、六去向去ナリ。一去、却来ナリ。曹洞宗、向去。却来分段ノ事数多在之。ヨクノ参ズベシ。ドレモ廿七段ヲヨク極ムレバ、一位ナリ。

(※傍線筆者)

これに依れば、「自己・智不到・那時」の三位に対して、それぞれに三つの「首句(かしらく)」が配当され九段になるが、更に「九ツノ首句ヲ、廿七分ツヲ、夜参廿七夜」と言い、その内容は「向去ガ九段、却来ガ九段、行李ガ九段デ、三九廿七段」であるとする。

次に本書の構成に関連して、二十七段の項目とそれぞれの透に配された「透句」と「挙処」とを以下に掲げたい。

曹洞廿七段之目録

自己三段向去也。

(1)自己之自己 万機休罷之透

【首句】万機休罷。 【挙処】一死更不再活。

(2)自己之中 醒處之透

【首句】煩惱即菩提、生死即涅槃。 【挙処】通身無影像。

(3)自己之向上 安心之透

【首句】深固幽遠無人能到。 【挙処】無心退得無心道、退得無心道也休。

智不到三段向去

(4)智不到之最初 愚智之透

【首句】唯獨自明了。 【挙処】鉢盂向天底時節。

(5)智不到之中道 妄智之透

【首句】天上天下唯我独尊。 【挙処】推与挽主車行。

(6)智不到之向上 寂智之透

【首句】玉輪機轉笑呵々。 【挙処】瑠璃殿上撲倒粉碎。

那時之三段向上(去カ)

(7)那時之最初 那辺之透

【首句】語帶玄無路、舌頭談非談。 【挙処】子還就父、々全不顧。

(8)那時之最中 至到之折角透

【首句】蒼頡祖父寒坐位、白髮兒孫夜過門。 【挙処】王居門裡、臣不出戸。

(9)那時之向上 相續之透

【首句】二頭松鷄点火燭、師資相逢心法傳。 【挙処】根莖牽實血脉貫通、金鎖連環相續不斷。

向去終

却来九段・出派

(10) 自己之自己 位裡点側之透

【首句】莫守寒岩異草青。 【举処】依那辺不留、閑田地不守。

(11) 却来之自己之中 化度之透

【首句】倒騎白額兒、突出衆人前。 【举処】養子順不得摩捋、

棒要殺喝要耳聾。

(12) 却来之自己向上 為人之悉曇之透

【首句】偏中有正々中偏、流落人間千百年。 【举処】自携淨

去テ沾村酒、□却著衫來成主人。

却來智不到三段

(13) 却來智不到最初 禪定三昧之透

【首句】寒炉無火獨虚臥、涼夜無燭到天明。 【举処】釣絲午

夜休拈弄、風拭湖光水月秋。

(14) 却來智不到中道

【首句】月船不犯東西岸。 【举処】不欲犯中。

(15) 却來智不到向上

【首句】玉馬吞乾明月泉、泥中牛耕瑠璃地。 【举処】凡聖脱

尽シテ意皆ナ空ナリ、有佛ノ處ニ不用邀遊。

却來那時最初

(16) 却來那時最初 孝滿之透

【首句】揭開金鎖看裡頭、陰々風光本自異ナリ。須知雲外千峰

上、別有靈松帶露寒。(17) 却來那時中道 寶主不到之透

【首句】重幃勝負休、金殿臥清風。 【举処】機尽功忘恩儀断、

便成不孝闡提人。

(18) 却來那時向上 仙境之透

【首句】透過那辺看、猶有出身路。 【举処】仙家不會論春夏、

石爛松枯是一年。

行李九段出派

(19) 行李自己最初 村裡底之透

【首句】百性日用不知。 【举処】時夜清雲殿上人、今朝皈來

弄泥團。

(20) 行李自己中 村裡底醒處之透

【首句】五帝三皇是何物、稼穡艱難總不知。 【举処】太平事

業無象、野老家風至順タリ。

(21) 行李自己向上 村裡底無事之透

【首句】百花繚乱可被笑、比來天地一閑人。 【举処】昨夜睡

眠何処用ゾ、蓑衣猶帶野苑香キコトヲ。

行李智不到三段

(22) 行李智不到最初 入派將軍之透

【首句】帝城勅展則、每持尊言三閨。 【举処】籌運帷幄中、

勝決千里外。

(23) 行李智不到中道 將軍汗馬功之透

【首句】乘肥馬披輕裘。 【举処】太平扶佐天子、卒土鎮安民

姓。

(24) 行李智不到向上 將軍功極之透

【首句】功成不處、電火難追。 【举処】一戰功成早制身、釣

竿輕動五湖雲。

行李那時三段

(25) 行李那時最初 王道不点之透

【首句】積代簪纓者、休謂落魄時キ。 【举処】當処便是法王

城。

(26) 行李那時之中 王道本文之透

【首句】天然貴胤本不功。 【举処】爵持黙々坐。

(27) 行李那時極則 王化德用之透

【首句】德合乾坤育勢隆ナリ。 【举処】春ハ青陽タリ、風氣温

和。秋ハ白象タリ、風氣清凉タリ。

目錄終 向去之終

龍泰寺所蔵『宗門之一大事因縁』において見たように、曹洞三位に配される透句の種類は多く、又その組み合わせも多様である。それは、道元派下の各派毎に独自の体系が三位説についても形成されていたことを示すものと言える。本書の特徴の一つは、天真派下の希明派に相伝してきた「夜参二十七段」であることが明確であり、それぞれの段に配された「首句」「頭句」とも、師の拶語によって導き出される「挙処」「着語」「取句」ともが一つの句に限定されている点にある。更に、「首句」と「挙処」とに対する註釈、又その段の意味づけは、「心得」として説明される。

五、まとめにかえて

本稿では、先に取り上げた円応寺所蔵『靈機宏聖道三位之次第』に関連して、夜参及び三位についての透句の資料について考察を加えた。龍泰寺蔵『宗門之一大事因縁』は、華叟派下に相伝された資料であり、「夜参之盤」の部分は語録抄的性格を有し、三位の透句の理解に資するものである。叡山文庫所蔵『宗門密参』は、天真派下希明派の本参資料であり、「夜参二十七段」の透句として典型的な内容を持ち、夜参における三位の受容を考察する上で貴重な資料であると考える。

註

- (1) 拙稿 「中世曹洞宗における本参資料研究序説(三)——峨山関連抄物と円応寺所蔵本参について——」(『駒澤大学佛教學部論集』第三〇号、一九九九年・一〇)
- (2) 金田 弘 『洞門抄物と国語研究(資料編) 補陀寺蔵円相門参・長年寺蔵門参・長興寺蔵上々之参得・大中寺蔵本参』(桜楓社、一九七六年・一〇)
- 同 右 「長年寺蔵」『法宝蔵海』と接続辞サカイ(『近代語研究』第五号、一九七七年・三)
- (3) 石川力山 「肥前円応寺所蔵の門参資料」(『印度学仏教学研究』第二九卷二号、一九八一年・三)
- 同 右 「肥前円応寺所蔵の『山雲海月図』について」(『曹洞宗研究員研究生研究紀要』第一号、一九七九年・八)
- 同 右 「峨山和尚『山雲海月』について」(『日本印度學仏教学研究』第二八卷二号、一九八〇年・三)
- 同 右 「禅宗相伝資料・切紙資料を中心とする日本中世仏教の社会的機能に関する研究」(平成7年度から平成8年度科学研究費補助金(基盤研究(C))(2)、一九九七年・三)
- 同 右 「峨山和尚誦抄『自得暉録』について」(『宗教学論集』第九輯、一九七九年・三)
- 同 右 「『靈竺浄慈自徳禅師録抄』の研究(一)」(『駒澤大学佛教學部論集』第二八号、一九九七年・一〇)

同右 「肥前円応寺所蔵『大菴和尚下語』について」

(『宗学研究』第二二号、一九八〇・三)

同右 「円応中興了然大和尚法語』について」(『宗学研

究』第三三号、一九八一・三)

(4) 安藤嘉則 「洞門抄物における夜参の研究」(『曹洞宗研究員研

究紀要』第二四号、一九九三・九)

同右 「曹洞三位の研究(一)」(『駒沢女子大学研究紀要』

第三号、一九九六・一二)

同右 「曹洞三位の研究(二)」(『駒沢女子大学研究紀要』

第四号、一九九七・一二)

(5) 石川力山 「中世曹洞宗切紙の分類試論(五)——叢林行持

関係を中心として——」(『駒澤大学佛教學部研究紀

要』第四三号、一九八五・三)

同右 「中世曹洞宗切紙の分類試論(十七)——参話

(宗旨・公案・口訣) 関係を中心として(中)——」

(『駒澤大学佛教學部研究紀要』第四九号、一九九一・

三)

(6) 註(2)参照。

(7) 石川力山 「美濃国龍泰寺所蔵の門参資料について(中)」

(『駒澤大学佛教學部研究紀要』第三八号、一九八〇・

三)

(8) 金田 弘 「叡山文庫と禅籍抄物——主として洞門抄物の種

類とその性格について——」(『國學院雜誌』一九八一

・五)

資料(一) 岐阜県龍泰寺蔵『宗門之一大事因縁』

曹洞宗乗者、石頭一派出タゾ。我カ先祖達磨圓覚大師ヨリ、第六世惠能大師、五祖ノ弘忍於ニ會裡ニ、確旁行者トナル。昼夜此事ヲ拈得ノ、喫茶喫飯ノ隙ニダモ、サシヲクナシ。工夫順塾ノ、自然ニ根本智ニ透入ス。透入シタト云テ、凡境ヲ打破ノ透入スルニアラス。ソツトモ境界ヲ損ザズ、心智ニ當得ス。心智ト者ハ、不思善不思惡、本来ノ面目ヨ。青原既ニ得ニ此旨、六祖々紹。石頭ハ、又青原ニ兼嗣ス。其ノ流レヲ扱ダル宗旨ナ呈、毫髮モ違却スベカラズ。齟郎當ニ参スル禪者ワ、吾ガ宗旨ニハ、依テモツカヌ支ヨ。宗旨綿々密々、深々沈々タル唱ヲスベキ者ノワ、平生ノ行迹、平生ノ言語、或ハ乱喝胡喝モ、盲枷瞎棒(一オ)タグイ、拳取ルベカラズ。山ヲ拔キ、鼎ヲ拔キ、大海ヲ折翻シ、五須弥ヲ躍倒スル底ノ手段モ、平生喫茶喫飯ノ上ニモ有ルベシ。アナガチ拳ヲ握テ、脇下ヲ築キ、足ヲ擡ゲテ、劈面ニ来タシ、或ハ威ヲ振テ喝シ、或ハ威ヲ振テ棒ス。大クハ邪魔ノ眷族タルベシ。古人、万ガ一如レ此ノ見解ヲ具スルヲモ、日本初祖永平道元和尚、深ク是レヲナジル。況ヤ、後学末代ノ沙門、餘智不_レ忘、不_レ脱_ニ識智_一、從_レ如_レ此見解ヲナサバ、入_ニ地獄_一如_レ箭_一ナランノミナラズ、正法ヲ喪_レ尽_ル者也。末世濁乱ノ末_ニ生_ル根器、如_レ夢幻

ナラン者ハ、只古人ノ旧規ヲ守テ坐禪シ、十二時中此ノ支ヲ念トメ、身心脱落スベシ。身心既ニ脱落シツレバ、向上・向下・中道、五位君臣、徧正回互、尽ク通貫セスト云_テ無故ニ、永平和尚於_ニ天童_一、此ノ身心ヲ脱落ス。已前ニ、建仁開山、徹和和尚ニ参_レノ已後、渡唐ノ時キ、(一ウ)弟子明全ヲ拜メ、既ニ血合嗣法ノ旨子、其ノカクレナシ。雖_レ然未_レ身心_ニ脱落_一レバコソ、於_ニ天童山_一打眠_ノ次ニハ、脱落ノ時節ニ相イマシクツラウ。只夕見ミタル処、聞イタル処ハ、少シ。子ヘシケナリ共、常眉ヲシワメテ、外塵ニフケラスンバ、一度出期ノ時節アルベシ。第一此ノ身心脱落ヲ可_レ参_ル者也。古人ノ云、三世心尽、表裡情忘、真常体露、即如々佛ト、此一句ニ三位ガ走ゾ。参禪分明ナラズ、吾宗ノ種草トナルニタエタリ。然、百千公案ヲ透過_レ、師資互ニ受_ニ衣鉢_一、一大支ヲ印ス。是ヲ種草トナルニタエタリト云々。然後、十年五歳長養ノ工夫順塾_レ、此ノ夜参ノ大因縁ヲ可_レ令_ニ参_見一者也。夜参ト者ハ、日本ニ云_ル処ノ語、陞堂・上堂ノアル則ンバ、小参アリ、晩参アリ。日本モ、此旨ハアリトイエドモ、灵和尚老後迄、不_レ許_レ給。御遷化ノ砌、於_ニ青原山永澤寺_一行初玉エリ。然、陞堂・(2オ)上堂無_レ之間、一拶ト号、朝参ト名、晩参ヲ号_ニ夜参_一云。此大法嗣法傳底ノ法師第一人ニ可_レ付者也。然間、自餘此旨ヲ不_レ許_レ玉、最乘開山了庵和尚一人付之玉ヘリ。其ノ餘ノ九派ハ、傍出也。了庵モ又々如_レ此ナルベシ。夜参ト

者ハ、密語也、陰法ヲ云也。朝參ト者ハ、頭也、陽法也。陰陽ニ比シタト云テ、陰氣陽光属シタトミベカラズ。其ノ言ヲ借也。朝參ハ、頭法ナルガ故ニ、時々回互幾可有。夜參ト者ハ、密語ナル呈、時々不回互ノ幾アルベシ。只サシヲカズ、此ノ書ヲミテ、工夫領解スベキ者也。

轉凡入聖用之。

一、轉凡入聖ノ格ドレモ、轉凡入聖ニワ、ハツレマジキコナレドモ、句ノ骨格ヲ云ベキ為ニ、如レ此一也。

案山卓頭。元和尚トツゴツト天童松堂坐禪ノ當位ガ、全躰案山デハ無イカ。淨和尚ノ、僧ノ打睡ヲ責ムルヲ聞テ、坐禪(2ウ)ヲモ擲タゾ。コタソウヨ。案山卓頭トハ、或ハ、鉄樹ゾ、犢牛ゾ、ト云ハ、無心ノ境界也。坐禪ノ當頭ヨ。脱落ノ時節、花開、生レ兒、無心ヲモ卓ノ走ウワ。此透ハ、何レモ如レ是。

以ニ格句一取句ヲシラフベキ者也。三日出スワ、足土也。一日當テモアレガシ、自餘ヲハシタラウニワ、散々ヨ。青原山三千衆ノ物語モアリ。ドチエシタモ同トヨ。サテ、朝參ニ此透ヲ何ントハタラカサウズゾ。ナレバ、各々ノウテ程ヨ、封疆程ヨ。サリナカラ、先聖ヨリ大方ノアツカイノ格ハ、或ハ年窮リ歳盡、或ハ云、乱後太平、或云、一氣生也。又云、難肯処ノ卓頭、或ハ削派、其ノ外、腕力可レ依者也。私云、鉄樹花ノ開透リハ、正中來トモミベキカ。案山卓頭ハ、削派親切也。

二、轉レ功就レ位之旨。丹鳳不レ栖レ梧。丹山ハ、仙境也。何ントテ、轉凡入聖ノ自己ノ上ノ功ノ轉処、丹鳳ヲバ取り出シタゾ。此様ナルヲ、審細見ル人ガ走ヌゾ。人々本来人ナラヌ人ハナイゾ。元本ノ性ヲ具足(3オ)セザルハナケレ共、此人ノ今時ノ功ニ墮スルガ故ニ、元本ノ性ニ隔タル也。境界ヲコソ、脱落シタレ。本性ハ、アラタメサル也。故ニ、轉凡入聖ノ上ノ功ノ轉処ニ、丹鳳ヲ用也。梧ハ、群木ニ不レ類也。秋ヲ報スル木也。秋ト云ハ、万木調落(凋)ノ、夏ノ質ヲ見ズ、暖氣ヲ一卓モ不レ得故、知不到ニ用ユ。四時ヲ四位ニ合スル時、春ハ、生スル故ニ目前ト称ス。夏ハ、長スル故ニ、自己ニトレリ。春ノ生相ヲ破却ノ、不変ノ体ヲ長シタゾ。故自己ニ取也。秋キワ、目前ニ取ル故ニ、知不到ニ合ス。何ントテナレバ、長相ハ、悟ル功也、從縁底也。其ノシケツタル草木ガ、自落散テ、暖氣一卓モ無時、陰一返タゾ。然間、天上モ瑕翳ナク、水モスキツタゾ。月モ水モ秋夜モ、皆ナ陰也。卒度陽氣ガマジワラサル故ニ、一色ナゾ。マジリ物ワナイゾ。陽氣トハ、佛祖ノホトヲリヨ。宗旨テ、知不到ニ取ル理ハ、是レ也。此外ハ、アルマジキ也。梧ヲ出世ニ取ル理モアレ共モ、此透ノ格ニハ、秋ノ用処ニ(3ウ)ナル也。梧ニ栖マ子バ、功ヲバ轉セヌカ。白雲功尽青山秀。此句ハ、案山卓頭ニ、格ガ對シタゾ。白雲ノ功トハ、知不到ヨ。ナゼニナルニ、白雲トメ、山ニヨラザルワナシ。山トワ、那時ヨ、青山ヨ。位ニ近

キ功ナル故ニ、白雲ノ功ト号ス。又、自己ヲ白雲ト云時ノ句
面ハ、洞然明白ヲ云也。キラリトシタ程ニ、雲ワアルマジキ
コナ、ト思タレトモ、子細ニ見レバ、面白ソウワ。明白コソ、
雲ヨ。乍レ去、雨風ヲ引ク、黒雲ハ、憎愛ヨ。古人云、坐^ル
看^ル白雲ニ宗不^レ妙。是ワ、自己ノ白雲トキコエタゾ。白雲
—— 秀ト云時ノ如ンバ、智不到ヲ轉メ、旧青山ニ就ノ旨ナ
ルベシ。玉籠飛出鳳凰児。別ニ此句ニ、工能ハナイゾ。又云、
木人功尽——トハ、陽ノ主也。知不到ハ、陰ナル程ニ、別
ノ支ナガ、ナゼニ木人ヲバ、功ノ主トハシタゾ。夜半ヲ陰ニ
取故ニ、語ノツズキニ依テ、見替^カタゾ。那時ヲ陰ニトラバ、
智不到ハ陽ニトラデワ。功尽^キ低頭ハ、陽ヲ轉メ陰ニ就ク体也。
夜半ハ、子寅(4オ)暮當頭ヨ、極リヨ。此木人ガ、低頭ノ行
テハ、ドコエ行キ、何ンタルコヲ作シタゾ。夜半ニ挿ンタ金
針ヲ行イテ拾ウタゾ。ナセニ拾トハ云タゾ。主ノナイ物ヲ取
ルヲ、拾ト云也。通身ガ金針ゾ。功尽低頭シ去テ、夜半ニ位
イスルガ、金針ニ徹底シ様也。是ヲ、金針ヲ拾ト云也。又ハ、
難^キ得^ラウル故ニ、拾^ット云也。夜船トハ、月ヲ載セタル船也。
又ハ、月ヲモ云タゾ。瑠璃ノ地トハ、知不到ヨ。那边ニ取ル
理モアリ。二説ナリ。ドチエシタモ、一心也。知不到ニモ云
時ハ、如淨瑠——、此句ヲ以テ證拠トシタゾ。瑠璃中ガ知
不到ナレバコソ、真金像ヲ那主ト見ベケレ。此ノ經文ヲバ、
先達、不轉御アツカイ有ル也。撥轉スレバ、功ヲバ轉タゾ。

那边ト見ル時ハ、瑠璃ノ地ニ卓シタト見ベシ。二説、何モ一
ツコナルベシ。玉馬過——夜。玉馬ト云テ、主ヲ犯サヌゾ。
関トハ、功位ノ間立^ニタ関ヨ。別ニ立テタテハ無イゾ。肚裡ハ、
功勲自然ニ尽キハ、此ノ関ワ、人アケヌニ、バツト開キウズ
ゾ。然バ、過グルモ、苦惱ハアルマジキ也。揚^揚開金鎖(4ウ)
——。金ト云ハ、玉関ノコヨ。功勲^勲ヨ。銀鑰・銀籠・鶴鷺・
雪月・芦荻、此類尽是今時之用ト心得ベシ。此功勲ガ、自然
ニ冲処デ、金鎖ハ、自ラ開ケテ、陰々タル風光ガ、我レララ
ムカエ取様ナゾ。退歩——新、同心也。白雲——秀ト云
句ニ、心ヲ付テ、御覽セヨ。功勲ガ、自然ニ冲ラバ、青山ハ
自秀スルゾ。朝参ニモ、此透ハアツカイニクイゾ。マギレコ
ガアルゾ。先達モ如^レ此被^レ仰テ走ゾ。
位裡^ニ不^レ能^ニ収^コ之^旨、
透過那边ノ路、出身ノ路、ト云タトテ、山僧ガ囉^囉二走タ様
ナ支デハ走マイゾ。那边^ニ到得テ、到リ得タトモ持ヌ時、那時
ニ徹底シタゾ。此ノ透ニ、工能ハナイゾ。瑠璃——碎。是
ハ、宏智、那边ノ支ノ答話ヲ以テ見ベキ也。那边ノ支トハ、
那支ヨ。高僧——基。此句ワ、山僧不^レ用也。高僧トハ、
達磨ノコナ呈^ニ、不分明也。累垂^{ケル}——尺。ウシノコ也。此透
ノ格ニワ、何ト合セタゾ。牛ガイツ牛ト知テ走ゾ。牛失却^メ
走ワ。頭長三尺知是誰。異人也。又云、牛也。牛共知^ラヌゾ。
サテ(5オ)コゾ、誰デハアレ。亦^マ異人ニシテ、何ントナレバ、

知是誰、異共シラヌゾ。去社、異中異デハ在レ。金殿——
堂。々ト云テ、主ヲバ犯サヌゾ。サテ猶深ウナツテ走ワ。此
透リヲ、朝参ニアツカウハ、コノテニハニテ、却来ヲフクマ
セテ、アツカウベシ。先達如レ此御アツカイノ旨モアリ。
二透初、人境双忘之筋目。

万機休罷。万機トハ、平生ノ忘心ヨ。忘心未レ休時ハ、六根ア
リ、六識アリ、六境界アリ。六根トハ、眼耳鼻舌身意、六識
トハ、見聞嗅語披思、六境トハ、色声香味觸法。此十八界ニ、
又十善在アリ、十悪アリ。合テ三百六十也。此レヲ、三百六
十骨節ニトリ、者ナラバ、是ガツブダツタル人ゾ。天下ニ比
セバ、一郡一郷主ホドノコトゾ。十八界ヲバ、ナント見ベキ
ゾ。一國ノ主ヨ。十八界ノ眷属ガ、合テ三百六十人也。三百
六十ノ骨節ニ入りハマツタ煩惱ガ、八万四千煩惱ガ、悪徒ヲ
引テ、一生涯イ、寂々タル心王ヲ勞煩スル也。此レヲ万機(5
ウ)ト云也。此ノ忘ラ能休スル底ノ人モ無イゾ。サテ社、休罷
デハアレ。故ニ、人境喪忘(双忘)ノ筋目ト云也。休去歇去ト云モ、
又如レ此。サテ、千聖不携ハ、何ント聞エタゾ。休スレバ、換
骨人トヨ、達磨ヨ、釈迦ヨ。達磨ヲモ立シ、釈迦ヲモ立スレ
バ、マダ煩惱ヲ引タゾ。故人ヲ罷タゾ。是ヲ、先聖不携ト云
タゾ。古人ノ云ク、万機休罷——携。即是你ガ自己、人境
喪忘シタル時コソ、真ノ自己ヨ。如薪尽火滅。薪トハ、境ヲ
云也。何ンゾナレバ、心ヲ火ト云タ程ニコソ、薪ノツク間、

心火モ炎ガ在ルゾ。炎ノ在ル間タハ、忘心ヨ。薪ガ尽テ、火
斗ハ立セサル也。薪キ尽タル、休、火滅スルワ、罷。又、指
頭築破——、此句ハ、山僧ハ、不ニ心得。先達ノ何ニトカ
ヲカウラウジテ、此句ノ中ニアソバシテ御座アルラウ。不レ及
ニ説話。家破人忘。此ノ句、分別スルニ不レ及。蛇脱皮——
骨。皮ト云ハ、筋骨ヲ裹者也。蛇ガ皮ヲ脱スレバ、竜ヨ。別
ニ龍蛇ガ有ルニハアラス、凡境ヲ轉スレバ、聖心ヨ、竜骨ヨ。
好ク轉(6オ)ズレバ、竜骨モヌケタゾ。一死更不再活。死ガ
ヨワケレバ、甦ルゾ。好ク死スレバ、死ヲモ罷タゾ。一足ニ、
二足ガ有ゾ。朝参ニワ削テモ又タ見ベシ。此ノ削リハモ正路
ナル故ニ、一透ヲ見スル、針頭ニ鉄ヲ削ノ旨、是也。
照用双忘之透。

寒炉無火——。此ノカシラ句ハ、ヨリ格ガマエノニツイ
ノ走ゾ。寒炉トハ、自己デ、焼木モ尽、火モ滅ノ、水打ツイ
テ居タル地炉也。此境界ノコソウヨ。一人モ、虚堂ニ臥タワ、
一人モナイゾ。臥ス処ワアレドモ、ステニ虚堂タゾ。境モ無
イゾ。臥セバ、人モ無イゾ。唯獨自——見。此句ハ、經文
ヲ以テ見ル則ンバ、只タ法華經第一ノ妙ノ儀ヲバ、ヲヤモヲ
シエズ、坊主モ垂示セヌゾ。只自知セデハ。六塵境ニヨリ、
六識ヲ以テ弁スルワ、皆別人ノ見ノ入タコヨ。其レデワ、万
劫千聖見ラレマジイゾ。一念不生、前後不レ分、當念テ好ク此
ノ一儀ヲ自知シタゾ。サテ、吾家ノ夜参ニ用ル則ンバ、喫用、

功ヲ、(6ウ)千佛ノ功勲トス。千佛ノ知功喫用尽忘メ、平々タンノタル處ニ、若千佛ガツラヲ出シタラウニワ、何ンデモ無イコヨ。如レ是ミレバ、此境界ニハ、人モナク境モ存セヌゾ。今破テ見タコデハ無シ。朝参ノアツカイワ、二説在リ。經文ノ筋目、一スヂメ、此レモ修證ニソウゾ。一説ニハ、餓鬼・畜生——人・天・声聞——菩薩共ニ、己レナラサル人ガアツテ社、此時餘人ガアツテ社見スレ。深徑苔生。照用双忘スレバ、人ハナイゾ。人ガカヨワバ、苔ワシゲラデワ。此ノ地ノ苔ワ、踏ミチラス苔也。桌処ガ有ル程ニ、然間、境ヲモ不レ存也。故ニ、照用双忘ト云。

臣主双忘之筋目

宝殿無人——風来。宝殿ト云ハ、金殿ノコヨ。七宝ヲ以テ莊嚴スル故ニ、云也。金殿トハ、七宝ノ中ノ最上ナル故ニ、金殿ト云也。紫閣殿トモ同意也。宝殿無人ト云ハ、金殿ニ主ナイゾ。然ハ、臣ノ侍立セウズル理モナイゾ。此ニ卒度トモ尊貴ガナイ程ニ、鳳凰ノ来儀スル理モナイゾ。瑞鳥ナル故ニ、不祥ノ節ニハ、不来ト云云。(7オ)苔封古——侍。前ノ句ト同也。栖霞シタル宮屋ノ底也。玉殿苔生。此レハ、南泉ノ答話ノ筋目ヲ以見バ、ヲタイナル錯リナリ。玉殿ニ苔ケ打ちムシテ居ツ、人ノカヨウタ共見エヌ処ヲ御ラウゼイ。臣主双忘デワナイカ。不種梧——来。此句ハ、スコシフリガチガウテ走ゾ。梧桐ヲ種ヘシムル人ガナイ程ニ、鳳凰モ来ラヌト

云ゾ。臣主ガ合好メ、世上安泰ノ時キ社、梧桐ヲモ種エ、鳳ノ来義ヲモ待タゾ。臣主共ニ忘タル境界ナ程ニ、不種——鳳来免也。臣主双忘——寒ト云ハ、人ノ無キ樓閣、住ミ荒タル古屋ナドエ行テ御覽セヨ。身ノ毛ガサツト立ツ物デ走ゾ。是ヲ寒ト云也。此ノ透ハ、朝参ニワ、ハタラカスベキ様無レ之。三透之始、當頭之筋目。

湘之南——北。前後ヲ云テ、當頭取タゾ。真ニ當頭ト云タラウニワ、千里万里ヨ。到江——尽。越ニワ到ラヌ當頭ヨ。背觸共非。背ト云ハ、佛祖外、觸ト云ハ、佛祖裡ヨ。□(7ウ)當頭ヨ。朝参ワ、別ニ細密ナルコテナキ程ニ、注解スルニ不レ及。乍去、當ニ三位アル旨ヲ以テ見ベシ。類話多在リ。當頭不犯之筋目

月船不犯——岸。東ハ、陽也、今也。西ハ、陰也、古也。東ワ此岸、西ハ彼岸也。東西ノ岸ヲ、不犯ト、當頭ヲ互互シタゾ。西エモ東エモ舟ヲヨセヌ時、驀中當也。中當ト犯セバ、風波ガ起ルゾ。當頭ヲ不犯ト云ハン為ニ、東西ノ岸ヲ犯サズ、ト云云。古渡無風——午。此句ハ、大夏ノ取様サマノ也。ナセニ古渡トハ云タゾ。過去ノ諸佛、現在ノ諸佛、未来ノ諸佛モ、歷代ノ祖師モ、今時ノ善知識モ、此ノ渡ヲ一度渡ラヌ人ハ無イゾ。此古渡トハ、宗旨デハ、ドコゾ。性海無風宝鑑明ナル底ヨ。洞山ノ五位ニ合スル則ンバ、共功、不得色ヨ。サテ社、古渡デワアレ、功々ノ位ニ到ル底ノ人ワ、必此ノ共

功ヲ經テワ、到ル分ナシ。故ニ、古渡ト云ハ、三位ノ中、中當ナル故ニ、夜船ノ午ト云也。(8オ)午ハ、昼ノ正當也。夜船午ト云ハ、是レモ夜半ノ牛シヲ、昼ノ午_ニ互シタゾ。夜半ノ牛ヲ犯サヌゾ。此透リニハ、此句方ナクテハ、散々也。夜船牛ナリト、犯シタラウニワ、夜半ノ牛ガ角ヲ戴テ、嘶テ出スゾ。是ハ、回互ノ幾也。可_レ秘々々。方来ノ客ヲノ、謂ル將ニキカシムル_ヲナカレ。如_レ此少_ノ着述_ヲ以、綿密ノ宗風ト云タゾ。無影樹下——。是ハ、湘之南——北、此ノ頌ノ三四句也。此ノ頌ノ三四句也。故ニ、此透ニ編ム也。此一頌ヲ以テ、一透リ行旨アリ。二句ワ、一句ノ再釈ナル故ニ、不_レ注也。別ニ着述_(著述)是レナシ。無影樹ト云ワ、通身無影像也、那樹也。樹下トハ、知不到也。何セニ合同船トハ、云タゾ。智不到ハ、暮中當ナル故ニ、那時ヲモ自己ヲモ兼テ、此一船ノ中ス。那時エモ自己ヘモ、一方ヘツクレバ、合同船テワ無キ也。是レモ、合同船ト云テ、中當ヲ互互シタゾ。當頭ヲ々々ト云ハスノ、不犯ノ旨ヲ顯也。

正當位筋目。

位裡無_ニ方隅_一。前頭ノ二位ニハ、或ハ南北東西(8ウ)在リ。此ノ一位ハ、最上ノ一位ナル故ニ、無方隅ト云云。方アラバ、隅ガ無_テワ。現ノ證拠ニワ、□、此ノ圖ヲ御ラウセヨ。サテ、無_ニ方隅_一相ハ、ドコゾ。○此ノ一圓ヨ。位裡無_ニ向背_一。是モ、一圓相ヲ以テ見ベキ也。圓ノ時、卒共傾カヌゾ。國師無

縫塔、國師良久モ、此ノ一位ヲ拳ス。是、無縫ト云。耽源ノ頌モ、此一位ヲ瑠璃殿——識ト云云。何ントテ、一位ヲ美當シ、卒共犯セバ、正當ノ位ヲ失スル也。無向無背、理夏浪絶。此ノ透也。朝參ニ、アツカイワ、品_シ々々也。位裡無方隅。或云、馳書不到家。或云、方所ヲササズ。法眼宗ノ一透、當位即妙筋目

江國——裡。此ノ句ハ、惠超問佛ノ話ノ一二句也。江トハ、黄河ヲサス。西天・東土ノ兩國ヲ挿ンテ流ル故ニ、二孛ヲ江國ト云也。春風吹不起トハ、釈迦未出世、達磨未西来、佛心印ヲ不_レ傳時ヲ云也。鷓鴣トハ、這箇ヲ云也。深花裡鷓鴣トハ、只白地ノ人ヨ。此ノ人ヲ、本有ノ如来ト号ス。サテ、當位(9オ)即妙テワ走ヌカ。當トハ、柳ノ上テワ緑、花ノ上テワ紅ナ、ト見ルヲ、云タゾ。如_レ是見レバ、煩惱即菩提テワ走ヌカ。常在於其中——。經文ノ時ハ、世尊、世々種々修行功業ヲ積テ、五十二位ヲ透了ノ、果滿ノ後チ、衆生界ヲ度脱センガタメニ、還来堅説横説シ、常ニ一切夏中ニ混スレ共、本有圓成ノ如来ト見レバ、經行モ、坐臥モ、黄金ノ地ヲバ不_レ離故ニ、頭戴_ニ午夜月_一——地ヲト、金蓮花トハ、其ノ中ノ消息也。不_ニ汚染_一ノ謂乎。或ハ、家ノ夜參ニ取テ見ル則ンバ、其ノ句面ハ、一点モ用ニ入ラス、只十二時中何ニ心ナク經行坐臥ノ処、別ニ造作ノ功ヲカラサルハダエヲ、本有ノ人ト見也。如_レ此云タトテ、一向ニ手ヲツケヌ_ヲデハナシ。須_レ平常心是道

参シ得透ノ始得。法眼一宗ワ、六祖和尚ノ骨ズイナルベシ。何レモ、六祖ノ法跡、曹溪ノ流ヲ雖^(坂カ)扱、取分能骨格契^{カキ}好スルユエニ、如^レ是云也。當位即妙ハ、説話スルニ不^レ及。當處不^(9ウ)離——然。當処トハ、人々ノ當処モナルヘシ。又ハ、桃紅李白ノ當処モ見ベシ。其俣々々デ、卒度移動セザルガ故ニ、湛然ト云也。湛然タル処、本有ノ相猊^(貌)也。不^レ渡^ニ階級^ニ、至ル故ニ、當位即妙之旨ト云也。法眼宗ハ、三ツガ一透也。未挙揚、箭鋒機、掣電機。此旨ヲ以テ、朝参ニハ可^レ用欵。三段ガ、何レモ此心持ナル間、メイ^クニハ不^レ注也。正當不点之旨。

當處即是法王城。此當処ハ、知不到也。知不到ニ聽テ那時也。故ニ、鳳凰城ト云也。鳳凰城ヲ法王城トナス。何レモ一ツ心也。鳳凰ト云テ、法王ヲヒガカス也。鷓鴣ト云テ、這箇ヲヒガカス也。此ノ對ヲ以テ、此透ヲ用ユ。可^レ秘々々。瑠璃壺中妙薬トハ、知不到也。智不到ニ用ル時ノ句面ハ、表裡キラリトメ、ガエ^カイ無キガ故也。妙薬トハ、那主ヲサス、可^レ秘々々。銀椀裡——雪。此ノ句ノ上、那時ハミエヌゾ。如^レ是云処ニ、儼然タゾ。是ハ、朝参コブシニ似タレドモ、先達如^レ是見セラル々(10オ)故ニ、如^レ是注脚ス。當處——然。當処ハ、知不到也。ソコニ、不変ノ□^(解)ガアルゾ、ト云義也。正當ヲハタラカサズ、根本智ヲ見ル故ニ如^レ此、云云。本有天然主不改之旨。

天然貴胤——功。美當ガアリ、肯ノアル間ハ、皆天然ノ貴胤ニアラス。胤ハ、種也。本有天然ニシテ、造作ノ功ヲ受スノ、其位ヲ離レザルガ故ニ、天然ノ人ト云。此ヲ帝王ノ種ト云云。貴——不常種、天——尊。常ノ種ト云ハ、百官ケイシヤウノ種ヨ。此ノ透ヲ綿密ニ行ウベキ者ナリ。可^レ秘々々。六祖道底之筋目。

百姓日用不知。ヲシ出^メ、大唐モ日本モ、姓ハ、四家ヨリ外ハ無イゾ。四家ノ餘ハ、皆百姓ヨ。百姓トハ、下烈ノ者、田夫・野人・漁夫・山翁ノ類イ也。日用不知トハ、飯ヲクイ、釣ヲ垂レ、魚ヲウル上モ、不思善不思惡ノ正當、本来ノ面目ハ有レドモ、不^レ知也。不知却テ親イトハ、是也。可^レ秘々々。從來共ニ住ノ名不^レ知。何二者ト共ニハ住シタゾ。此本来人ト共ニ住シタガ、夢メ程モ不^レ知ル也。若知タラバ、(10ウ)何ンデモナイコヨ。六祖一生涯モ、又如^レ是也。

墮之筋目。脚踏當門功用不^レ墮方^ニ。當門ト云ハ、知不到也。功用方トハ、功勲也。功用徹底ナ呈ニ、功用ノ沙汰ワ無イゾ。月明月秋不知。別ニ説話ナシ。能々弄ズベシ。

尊貴之筋目。王不存王位。天然ノ王種ナル故也。田夫・野人ノ經へ上テ、侍ニナツタ社、侍ダテヲバスレ。山名・崑山ハ、我侍トワ知ラヌゾ。是モ、墮シタニ依テ、如^レ此也。樞密——旨。樞密

ノ旨トハ、王位ヨ。王位ヲ知ラヌ程ニ社、旨ヲ得ヌデハアレ。旨トハ、樞密也。

三透。絲毫未挙揚之旨。

尽十方——明珠。ト云タトテ、天地ヲ一ニトロカシタコトデハ走ヌゾ。曲ラウズモノワ曲リ、直ラウズ物ワ直ク、浅処ハ浅、深ラウス物ハ深く、高ラウス物ワ高く、低ラウス物ワ低、貴賤・男女・烏黒鶴白・花紅柳緑・桃紅李白、其レくニノ、チツ共(11オ)不ニ相妨。御覽セヨ、ドコニ別ノ物ノデハ走ゾ。只此ノ唯心ヨ。故人云、會ニ万物ニ為レ己者、其レ唯ハ聖人カ。又云、万物之中獨露身。此時尽十方、ドコニマジリ物ガ走ゾ。卒共挙揚セヌゾ。サテ又、一顆明珠トナツテ走ハ。ナツタト云テ、只今成リ得ルニ非ス。天然如レ此見出スト云義也。坐底坐——義當ス。トワ、ヲノレくガ、三昧ヲ換ヌゾ。石頭大底——小。トワ、大クカラウズル石ワ、從來大ク、チイサカラウズル石ハ、從來チイサイゾ。サテ社、別デワナケレ。此ノ時、万里一条ノ鉄タゾ。太阿鑊鐔。日本デハ、友切、鬚切り、五郎入道、乃至鍋釜迄モアレガシ。只金ハ、併刃ノ鉄ヨ。トロカシテ一顆ト見タハ、窄ゾ。夫レワ、挙揚ニナルゾ。三界唯一心。是ハ、分明也。取不得——只麼得。トハ、大ニハ大、アマリモセス、小ニワ小、カケモセヌゾ。不足ガナケレバ、取りモセヌ、アマラ子バ、捨テモセヌゾ。法々住ニ自位。此レモ、ヲノレくガ、自位ヲバ、トラカサヌゾ。

獨之筋目。

樓閣千家月——秋。千家月トワ、凡家也。樓閣ヲカマエテ(11ウ)、月ヲ翫フ処エモ、翫バヌ凡家エモ、山エモ、岳エモ、江湖エモ、一片ニ相照タ物ガ、有ルゾ。サテ、何物タゾ。此ノ一月ノ光輝ヨ。此ノ一月ト云エバ、イガマシケレ共、計量キレイニ見レバ、月ト云タデコソアレ。本位ヲ能見サシ玉ヘ。若シ義當ノ功ガアラバ、月欠路ガ有ズゾ。如レ是トガメテ、此句ニ魂イヲ入タゾ。圓同大虚——餘。是モ同シ。同ト云ワ、欠路ノナイ用処也。此ノ一月ノ光輝ガ、一色ニ相照時、獨也。無欠無餘只一輪ト、古人ノ云タモ、如レ此也。十分清白一輪月。是モ、欠路ノ無キ用処也。古渡——照。是モ、別条ノ義ナキ故ニ、不住。水天難弁——秋。向上向下、獨迄ヨ。水天相映不隔。一致混タ処コソ、獨ヨ。以前ノ、樓閣千——秋ト云句中ニ、彼ノ聞耳ガアルゾ。曹洞ノ僧ハ、如レ此ノ処ニ、心ヲツケテミベキ物也。

王化普通之旨。

徳合乾——盛。是ハ、天然尊貴ノ主也。故合ニ徳乾坤、卒共違儀スル者ガ無イゾ。歴上テ位シタラウニワ、乾坤一等(12オ)ニワ、王化ハ合ナウマシキゾ。胡生盛トワ、四海ノ民ヲ王子ノ如ク思召ニ依テ、四海ノ民モ安穩化染ノ、己ガ存スル儘タゾ。故ニ盛リト云云。王令稍嚴。キビシイト云則ンバ、當今デ少シ低イゾ。ヤタイツクシイトヨミテ、ヨシ。此王化

ノヤワラカニ民ヲ化スルヲ云ニ、只春風ノ大野ニ悠々トヲトツレテ、百花ヲ催ガ如シ。故ニ、ヤタイツクシイト云云。妙徳——虚トハ、寰ハ寰中、五畿内云、宇ハ塞外邊土也。高名トハ、天然ノ名也。大虚朗。卒共王化ガヨコシマナラ子バ、天然ノ名モ明白ナゾ。縦横——化。高キヲモ下キヲモ、偏ク王化ヲ施ス。程ニ社、妙展タデワ走エ。去テ社、王化普通之旨トハ、云タレ。位ニ此旨、是ヲ見バ、尤可ナリ。可秘々々。

對帶之透。

五基拍手——笑。先對トハ、自己目前一致ヲ云也。自己トハ、尽也。目前トハ、不尽也。故云、自己目前一致ト云。目前ヲ打破ノ、自己ニ透入スト見ベカラス。自己ヲ打破ノ目前ニ到也。曹(12ウ)洞門下深々微笑。一々呈嶠ニ宗旨ヲ挙揚スル間、先尽ノ透ヲ一透リ向上迄テ、行イツメテ、法眼宗ノ自己ヲ出ス。法眼宗ノ自己トハ、目前也、不尽也。爰ヲ自己トナツクル時ノ意ハ、自己ガ目前也。計量尽不尽ノ諦訛デ社アレ。此尽与不尽ニ兩辺ヲ叶合タ。此ヲ見レバ、自己ト自己ト合ス。是自己目前一致也。對帶ト是ヲ号ス。何ントテ、對帶トハ、云タゾ。尽ノ主ト、不尽ノ主ト、兩主對スル也。如レ此云タトテ、兩様有ルニアラス、自己ニメ目前ヲ帶、尽ニメ不尽ヲ帶ル故、對帶ト云云。故ニ、此對帶ノ透ノ句ハ、総ノ人ナリ共、フタリアリ。境ナリ共、ニツアツテ、サテニツ無

キ様ニシラベ合セベキ者也。尽与不尽兩様ナレ共、全ク二種ナキガ故ニ、如レ此云也。此ヲ以テ見ヲ勘ンカウベシ。吾基——笑。ト云ハ、尽ノ時節也。峨帽笑タワ、不尽ノ兒也。然レバ、笑ト見レバ、互相通メ兩種ナキ也。長公吞酒——醉。酒ヲ吞メハ、自心ヲ碎ク故ニ、(13オ)尽ニトレリ。李公醉タワ、不尽ノ兒也。雖レ然吞バ、醉タゾ。全兩種ナキ故也。不落不昧。不落ハ、墮也。不昧ハ脱也。不盡也。墮即脱也。尽即不尽也。壞州ノ牛毛、用所ナク、益劬ノ馬モ、用所ナシ。是ハ、法身ノ偈、古徳ノ注解ニ分明也。ニヲ云テ、一種ナル旨ヲ分明ニス。水中塩——青。此ノ句ハ、用力大夏テ走ゾ。眼ヲ閉テ、低頭ノ云、水中塩味、拶眼ノ云、色裡膠青。拶眼ハ拶眼ニアラズ、只目前ヲ云ワン為也。鏡欠圓鑿欠方。圓ルイ物ニハ、四角ナゾ。四角ナ物ニハ、圓イゾ。方圓本無ニ二種一。圓ニアル、方也、圓也。故ニ、一致ト号ス。此ノ透ハ、大總ニツアツテ、一ツニナル用所ヲ用ル也。此旨ヲ以テ句ヲシラベ、合スベシ。古人ニ錯リナシ。令人物ヲ度量工夫ゾ。功薄キニ依テ、魚魯ノ誤リ有レ之。深勘カヘベシ、子細ニ可ニ句ヲ吟。朝參用モ、又如レ此。(13ウ)通処ノアツカイ、是最親切也。可秘々々。

兼帶之透。

正獨不立故、此ノ大總ハ、正ノ徧ヲ兼、徧ニメ正兼ヌ。故ニ、

兼帶ト云。此透ヲシラブルニ、句多ク、是ナシ。故ニ、偏正
回互ノ句ヲシラブル也。意氣ハ、卒度モノ差アリト雖モ、先
聖ヨリ如レ此唱來故ニ、如レ此ノ、尽ノ透ノ功ノ点処ワ、正ニ
ノ偏ヲ兼、又、不尽ノ透ノ功ノ圓底ハ、偏ニ正ヲ帶。故ニ、
如何ントナレバ、白雲功尽青山秀。青山ガ面テ走ワ。有レ共、
ドコヤラウ、マダ白雲ヲ帶タゾ。サテ正ノ偏ヲバ兼ヌカ、サ
テ、波レ清不犯——異。清波ノ功ガ、面テ走ワ。サテ又、意
自異、位ヲ帶テ走ワ。点与不点ト、一致ニ叶合メ、兼帶ト、
コレヲ号。故ニ、當派ニ、三位ヲ参スルニ、不轉ヲ轉処ノ後
ニ参セシム。此ノ謂乎也。一大夏ノ折角也。可秘々々。野雲
ト云ハ、偏也。山トハ、青山也。山ニ横ルトハ、偏正ニタス
カル也。明月ハ、陰ノ主也、正也。波ハ、偏也。(14オ)浪ニ
沔ルハ、正偏ニモタレタゾ。サテ、轉不轉一致テワナキカ。
轉ハ尽、不轉ハ、不尽也。天共白雲暁——。天ハ正、白雲
ハ偏也。天共ニ暁、正ニノ□、水——流、偏ニ正ヲ兼。
水ハ、ハタラク体トスル故ニ、偏位ニトレリ。月ハ、陰ノ主
ナル故ニ、正位ニトレリ。黒狗——。正ニノ偏ヲ帶。白像
——。偏ニ正ヲ兼ヌ。太陽門——。陽ニノ陰ヲ帶。明
月——。陰ニノ陽ヲ兼ヌ。此レワ、少サカシマナ様ナレ共、
如レ是不レ苦。只此ノ透ヲバ、正位雖正——正、ト云句ヲ、
基トメ、句ヲシラブベシ。此レ夜參ノ秘術也。可秘々々。
双對之透。

尽ノ主ヲ始覺ト云イ、不尽ノ主ヲ本覺ト号ス。何レモ皆譬喩
也。本覺トハ、何ンゾ。色像トナラザル底ノ本空ヨ。八キ添
エ。那邊退得——履。當頭ヲ初ニ出ノハ、誰ノ筋目可レ然
也。轉處ノ自己ナラバ、路上有花——行。可然也。
夜參大法、句々又々有ニ秘密。一々注ニ解之。最頭如ニ宣
說、(14ウ)只平生ノ行蹟、踈行、言語猿藉ナラバ、是ナリ共、
不是ナルベシ。只言語ノ品ナ、句中ノ和キ、最モ簡要也。只
身心脱落ノ眼ヲ以テ、此ヲ見透ス。昔延儀聖代之御代ニ、丹
波ノ國ノ世ノ庄ト云処ニ、孫助ト云百姓一人有。常ニ木ヲ切
テ、業トス。目ノシイタル母ヲ一人娘、常ニ薪ヲアキナツテ、
錢ニ贊テ、衣ヲカイ、食ヲ求テ、母ノ為ス。一日夢ニ、王位
ニ上ルト夢見ル。又、忝クモ王ノ御夢ニモ、孫助ト云者ヲ、
大臣ニナスベシト、天帝釈之來テ、王ニ報スト夢見玉ウ。夢
醒テ、大臣ヲ近ケ、此ノ夢ヲ語リマシマセシ時、大臣モ又如
レ此夢見玉ウ。サテ、王勅ノ云、丹波國エ、宣便ヲ下スベシト
被仰ケレバ、武士ヲツカワメ、彼ノ者ヲ召シ寄セ、公卿ノ列
坐ヲ許シマシマス。有時昼寢メ、金殿ノ御障子ノ邊リニアリ
シガ、大音ヲアゲテヨバワリケルワ、其ノ斧ヲ持來レ。御器
カラノ木ヲ切ベキニト云テ、ワメキケリ。百官驚キ、卿賁馳
(15オ)走ス。君モ何ントナウ驚キタマエバ、如レ此奏聞申サレ
ケリ。其ノ後、武官ニ下シ玉ウト云エリ。天帝釈、孝功ヲ感
メ、王位ヲ許シ玉イケレ共、前ニツイタルクセワ、ナオラザ

ルニ、況ヤ牙郎當ニ胡喝ノ、身心忽々タラン者、万劫先聖深密ノ旨難_レ明。アイカマイテ、此旨ヲ以テ常坐ヲタシナミ、定ヲ守テ、^(幽) 幽遠ニ到可_ニ徹底相應_一者也。一大叟可秘々々。

私云、退得那邊——阿誰ノ句法ハ、笑入芳塵——、此類好。紫雲丹中人ガ、楊柳ノ巷ニ遊ダハ、下タレ共、下ラヌ也。路上有花——行。是ハ、随意ノ作足ト云也。是ハ、同_一ナガラ、句法遙異也。阿誰ノ類ヲ取ラバ、路上——ヲ混スベカラズ。心身脱落。身心ヲ脱落スレバ、脱落身心也。此デ、發シタ照タゾ。喫尽——トハ、智不到ノ處也。大道トハ、彼ノ聞耳也。通身無——位裡_ニモ、シトメヌ也。案山點頭ト同意也。(15ウ)

宝殿無人不侍立トバカリ出シタラバ、屋宅ノ由シヲ取ベシ。亦、不種梧桐——、下ノ句バカリ出タラバ、其ノ由ヲ取ベシ。

針頭削鉄ハ、万期休罷ノウラノ参也。心ハ、一ツナレトモ、句法ワ、別タゾ。前ノニツハ、アウ也。末ノ宝殿無人——、ト云ラバ、無為無叟底人——難ト云ニ、合ス。ホドニ、無為——難ト云ハ、ハキソエ也。是ハ、那時ノ参ニ合スル也。私云、四関ハ、轉凡入聖透ニ合スル也。七去ヲモ、二透ニ夜参合スル也。七去ヲ以テ行ベシ。休去歇去ト、最初ニ出シ、中ニ一念万年去ト出シ、末ニ、古廟香炉去ト出スベシ。家破人亡ノ透也。又、冷湫々——ト最初ニ出シ、中寒灰枯

——ト出シ、末一條白——ト出ス。是ハ、自己視如_{ト云}冤家_ニ透也。一条白練去ハ、空劫已前更已前也。ソコヲモ、去ト云ワヌ、今時エ出也。

私云、大陽玄五去ハ、削ハノ透也。是_ニ其行ウベシ。末ハ、共功・功々ノニツ也。私云、視自己——、是ハ、末ヨリ出タ句法也。那時ヲ轉倒^(側)シタガ(16オ)ドコエ出タト云_一モ見エヌゾ。前モ、自己ヲバ冤家ト見タガ、落居ハ、云ワヌゾ。中モ、同_一ゾ。如_レ此句ヲモアイシラウベシ。那時ヲモ轉倒^(側)シタト云テ、今時エ出タト見ベカラズ、猶深キゾ。

視自己如冤家。踏_ニ断_一ノ清白十分雪_ヲ去_ル。又、莫_レ守_ニ一色_一處_一。又、推倒雪獅子去、那時一步要醒々。

私云、身心脱落、々々心身。月船——岸。大極^(キヨウ)殿中四方。是ワ、當頭ノ透也。身心脱落ト云ガ、前後際断當頭也。脱落身心ト云ハ、遍界曾不藏ヌゾ。

湘之南——一國ト同意也。月船ト云モ、當頭也。意ヲ知レバ、彼此ガ出テクルゾ。大極——、是モ、驀當頭也。位裡無方隅ト同シ旨子也。南泉道底ノ夜参一透。心不是佛、知不是道。云心ハ、心ワ心、佛ハ佛、智ハ智、道ハ道、終ニ改ヌゾ。法眼宗ノ自己。坐底坐——兼當スト、同意也。三世諸佛不知有、狸奴(16ウ)——有。云心ワ、三世ノ諸佛ハ、狸奴白牯ノ知有_一ヲバ知ヌゾ。智ワ智、不智ハ不智ナリ。道不属智不属不知。是、那邊、兼中到ナリ。前ヨリ云言如ク、

其レノニアラタメヌ時、知不知ニマトワラヌゾ。

私云、誕生王子ニ、ナゼニ奇瑞ノ句ヲバ用ルゾ。マダ誕生セヌ時コソ、瑞ト云フワアラウスレ。云心ハ、誕生ガ瑞也。其ノ君ニ王子ナケレバ、宰相ノ子ヲ取テスルゾ。是ハ、天下ノ乱ノ相也。程ニ、誕生王子ガ、安清ノ瑞デハナイカ。洞上デモ、天然ノ主ガ、天然ノ位ヲ紹ガ、家ノ傾カヌト也。爰ガ、簡要也。

私云、紫ヲバ壞色ト云也。紫極宮中——卯。此境界ガ、餘色ニ類セヌ也。孤峰ノ諸山、色ニ墮セヌト云モ、如レ是ノ旨也。

愁人三透九頭。

大惠普覺禪師云、結夏已五日了、(17才)寒山子作麼生。結夏十日了、水牯牛作麼生。云心ワ、是ハ、未悟ノ愁也。マタ不_レ叶時ナ_レ呈、物ノヲ定ズ、愁也。只這裡ノヲダヤカナラヌトダ。柳ヲ見、花ヲ見、灯籠ヲ見、露柱ヲ見テモ、サテ何ントト也。寒山子ハ、シキノ寒山子ノト也。寒山・拾得ハ、文殊普賢ノ再誕ト雖_レ共、證拠ノナイト也。是ハ、方所ノ無キ用所也。サテモ、夏ヲバ五日過シタガ、向ト思フハ無キ物カナ、方所モナク、愁也。夏トヲ立テ於テ、誰ガ床シイ愁カツタ_レニデワナシ。是ヲバ、趣向ノ愁ト云也。此迷ガ、種ト成テ走ゾ。末モ同シ。牛ノ走タワ、何ントシタ道理ゾト、物毎ニ方所ヲ不定、愁イタゾ。

桂林葉落塞_雁声寒。云心ハ、當頭ノ愁也。衲僧ノ秋ヲ知ル底

ノ時節也。声寒トハ、シタタカニ接シツメラレテ、不_レ覺叫_{サケ}タ_レゾ。向ウ云エバトテ、合頭ニテハナシ。向上デモ、向下デモ、合頭(17才)ガ有バ、愁人デハ有ルマジイゾ。不覺叫_{サケ}処デ、卒度夢カ不_レ夢_{ユメ}如クニ見ソメテ、サシ置ヌゾ。眼見黄葉落——啼。云心ハ、黄葉ノ落チ孤_雁ノ啼ヲ聴テ、愁タデハナイゾ。前ノ當頭ガ、物々ノ上デ、醒ヌゾ。喫粥喫飯、坐臥經行、運水搬柴、屙屎放尿、只塞雁声寒ゾ。秋ヲ知底ノ時節也。桂林葉落ル処デ卒度見染テヨリ、如是愁ナリ。是ヲ得悟ノ愁ト云也。

只有照壁月——風。云心ハ、是ハ、傍觀ノ愁ト云也。眼見ニ黄葉_ツ処テ、腸ヲ断_レ尽_レテ、カラリト成テ、只照壁月斗有テ、人ワ無イゾ。吹_レ葉無_レ風トワ、伎倆モ盡テ、出息入息モ、断_レエ果タゾ。呈、爰ニ至テハ、愁ノ沙汰ハ無イゾ。傍觀ヨリ愁人ト見ナリ。是即渊源タルベシ。

雲岩一生不_レ知_レ有。云ノ心ワ、是ハ、智不到ノ愁也。前ノ愁ヨリ高キ也。(18才)絶後ニ再甦テ、愁也。只照壁——ト云処ガ、絶後也。ソコヨリ甦テ、愁タゾ。自カラ我ト心ヲ知り染メテ戀ヲバ人ニ習ウ物カワ。前ハ皆ナ習_ツテスル戀也。江月照松風吹_永——為。是ハ、ハキソエ也。今夜ノ夜スガラノ面白ハ、サテ何ントシタゾ、サテ何_レノ所為ゾ。

金鎖_揚開——異。云心ワ、金鎖ヲ揚開シタラバ、此人ニワ逢ウズト思タレバ、元自異。爰デモ、見ヌゾ。時社、陰々_陰

ル風光ヨ。是ゾト取テ出シタラバ、陰々風光デハ有マジイゾ。開テ、此ニアルゾト見ルワ、悪イゾ。終イニ肯ヌゾ。時キ、中的不忘トツタイタゾ。末ト爰ヲマギル々羊ナガ、諦訛可有。大叟ノ節角也。可秘々々。

中的不忘。云心ハ、肯エバ、中的デワ無イゾ。肯ハヌ時、的ハ、ソダツタゾ。是デ走ゾト肯エバ、的ヲバ、失スルゾ。早竟不解為客——人。只タ客成テ居デワト也。生涯孤獨ノ君ナ呈ニ、只不忘くデ、ハタシタゾ。(18ウ)中的ト、合面——ノ愁ハ、正ト中トノ折角ヲ以テ見ベシ。

合面睡着。云心ハ、此ノ愁ハ、副宿^{ソイ}ナガラモ戀シカルラン。爰デモ終イニ啼ハ休ヌゾ。

手把過頭杖、縫春臭異花。云心ハ、ホロくトシタニ仍テ、櫻ノ花ヲ鶏頭華ト見也。可秘々々。

快庵一派頭聖寺之出句如是也。

初一、案山点——。二、木人功盡低——。三、透過那——路。又、高僧不——。

中一、百姓日用——。又、金香炉下——。二、銀河清無——。又、水天難弁——秋。三、長年不出戸——。又、黄金自有黄金價。(19オ)

後一、吾基拍手——。又、張公飲酒——。二、風前月樹——宿。三、人平不語——。又、高處高平、低處低平。

初一、案山卓——。二、泚汾絶信——。又、中有黄金——。三、空王殿上——音。又、樞密不得旨。中一、江國春風——裡。二、月舩不犯——岸。三、通身——像。

後一、新婦騎驢——牽。又、奴見婢——。二、万年松徑雪深覆——遮。三、日面佛月面佛。又、青天白日。

初一、鉄樹——花。又、鉄舩——上。二、細中移步——。三、玉殿苔生。屋裡無——孝。

中一、眼若不眠——。二、只照——風。三、密室——縫。又、位裡無方偶。(19ウ)

後一、不落不昧。又、八兩八斤。二、白雲迷青——。又、夜月有——山。又別、夜明簾外暗弄機梭、明月堂前妙拈針線。又、落霞孤——。三、三世諸佛不知有——。又、若欲拈牛——。又、玉居門裡——戸。又、照體供——。又、毫釐有差——隔。又、刀斧斫不開。

初一、案山点——。二、不栖——旧巢——頭長三——寸。又、幻人無識受。

中一、破也々々、墮也々々。二、月落星暗——乾。三、密室爛——。

後一、彼是具足、我——。二、野雲依山——月、金——備。

三、王言如_レ絲。又、縱橫妙展——化。又、王道太平無——流。

初一、水中塩味——。二、物外独騎——。驢見井——炉。
中一、盡十方一顆——。二、古渡無風——午。風拭湖光——
秋。(20才)三、通身無影像。又、聖人無己。

初一、万機休罷——。二、深固——。又、一着不倒——。
三、人無渠識得。へ「中の透」を欠く
後一、視自己——。又、鉄船——上。二、退步——新。三、
那辺退得。又、文叔——。

後一、能碎者無破片。又、速礼三拜。又、直截根源。二、張
鷲尋尽——倚。三、真箇法中妙。

初一、不思善——。又、滿口水霜——。二、止々不須——
思。三、宝殿無人——来。

初一、千歲岩前——痕。二、圓同大虚——。三、天生位至
尊。

中一、不落不昧。二、但念水——知。又、白午臥雪裡。三、
祖佛凡——深。

中一、坐底坐受用——。二、樓閣千家——。三、德合乾坤。
又、王道太平——流。

後一、機不離位——。二、鶴出銀——漢。三、位貴九五——
途。又、月堂轉倒朝君父、直扣德指即借功。

後一、一死更不再活。又、桶底子脱。二、寒炉無火——。
三、金枝敲玉戸——。

千歲岩——痕。一死ノ徹底ノツヨキ裡也。能碎者——片、ト
云心也。一死更不再活トハ、殺ノイケルヲ云。死即活。サテ
社、再活ナシ。殺活ニ落チヌ境也。圓同大虚——餘、寒炉無

初一、常在於——臥。二、當處——城。又、不離當処——。
三、天然貴——。

——、是ハ、智不到ノ貧(21才)処也。貧処ト云ワ、那辺也。

中一、背觸俱非。又、有不是有——無。又、挾路難身轉——
山。有亦莫將來——去。二、無影樹下——。又、午日無影。

智不到ニ立テ、那時ヲ弄スル則ンバ、獨ニノ臥虚堂。又、那
時斗ニ見則ンバ、獨ノ字ニ取合ベカラズ。臥堂一片也。寂々

三、位裡——受。(20ウ)

零々也。天生位至尊、金枝——霄。此ノ句ヲ、コノテニハニ

後一、野菊含金——。菊金秋——。二、大湖三万六千——。

零々也。天生位至尊、金枝——霄。此ノ句ヲ、コノテニハニ

テ用ベシ。外ヨリ内ヲ窺イ、内ヨリ外ヲ窺ウ。身ヲ立処ニ立
メ、心ヲ内ニ通ス、是、外ヨリ内ヲ窺ウ也。又、位裡ニ居テ、
裡外ヲ窺ウ、是、内ヨリ外ヲ窺ウ也。當々々ノ格、是也。

坐底——兼當、樓閣千——秋、一死更——活、寒炉——堂、
金枝——霽。圓同大——余。即心即佛、佛眉拽地、ハキソエ
也。此句ハ、大ニノ外ナキ也。大ニノ外ナケレバ、四維上下
迄、灵性ノ不_レ滿云_フナキ心也。タラヌ処ガアレバ、アマル
ゾ。無_レ欠無_レ餘也。寒炉——云句ノウラ也。天生——尊、
天生ナレバ、居タトモ思フヌゾ。無_レ功無_レ徳、無_レ威風、無_レ
ニ乱劇。見ルコソ善悪ノ沙汰、皆此句ノ病也。金枝——霽ノ
ウラ也。(21ウ)坐底——當、此時ノ受用ト、兼當トヲ本ニト
ルベシ。故ハ、千歳岩——痕。法眼宗ニ折角アリ。其_レ俛_レく
トミレバ、無_ニ刀斧痕_ニ似タリ。只受用ト云ハ、水ヲワカメ、
湯ニ入、先代カラ用木ヲ切テ、薪ニス。兼當ノ心也。樓閣千
家——秋。此句不尽ノ一色、佛智モ祖智モナク、天上天下マ
ジリ物モ無シ。將軍令也。

徳合乾——、此ノ王道ハ、東夷・西戎・南蠻・北狄、此ノ君
徳ナラズト云_フ無シ。前ノ天生位至尊ト云時ハ、徳ガアルゾ、
無ゾト云ハ、皆病也。

初、万機休——、深固幽——、人無識得渠。

二、万里——、十分清——、王令——儼。

三、視自己——、退步美——、那辺退——履。

一、万機——携、視自己——。
二、深固——到、退步——新。(22オ)

三、人無——渠、那辺——履。
万機休罷ノ處ガ、大智充滿也。其境界ガ、千聖ノ灵機也。其
ノ千聖ヲモ捨テタレバコソ、不携ナレ。大智ノ沙汰モ無ク、
不携ナレバ、ソコガサタエテ、幽遠ノ地也。無人能到ナレバ、
人跡無シ。人跡ガナケレバ、識得ノ人モ無シ。渠ハ、那時ノ
深処ヲ指也。万里——、法眼ノ宗旨ハ、崑崙無縫_(マヤ)境界、
本有ノ自己也。万里ト指スワ、キリヲ置_ニ非ス、天上人間未_レ挙
揚也。本有自己ヨリ入ニヨツテ、不尽ノ功処ヲ、二ツ目ニ出
也。全ク白一色ハ、明歴々ノ境ニアラス、明歴々ハ、大智_ヲ
也。爰ハ、天モ地モ真白ナル時、更ニ_(虚)虚モ不_レ及、智デモハカ
リ難シ、弁別ニ落ヌゾ。処ガ、便那時空劫也。此當頭ヲカラ
スメ、ミルベシ。呈_ニ社_ニ、王令——儼。本有ノ太平ト云ハ、上
モナク下モナク、賓主ヲ不_レ分、尊卑ノ誦訛モナキ御代也。本
有スタレテヨリ以来、君臣ノ礼儀出来(22ウ)スル也。其レハ、
乱後ノ太平也。視自己——不携ノ意持ハ、冤家ト見レバ、飛
去也。深固——退歩ノ意持ハ、彼へハ、消息ヲ通難イト見ル
ガ、彼ノ兼當也。那辺——履ノ意持ハ、渠カ從來識得ニ落ヌ
ガ、隙ノ明ケ羊也。従前重々ノ位ヲ沙汰シ了ル處ガ、洞上ノ
行履也。

夜参之盤

一透之初

初、案山卓——同、犢牛兒生。

轉凡入聖用之。

中、丹鳳不栖。同、白雲功盡——秀。同、玉樓飛出——兒。

同、木人功盡低——針。同、夜舩撥——璃地。同、玉馬

過関——夜。同、揭開金鎖——自異。

轉功就位之旨。

(後)、透過那邊——路、同、瑠璃殿上——碎、同、高僧不坐

——臺、同、累垂鼻吼——尽、頭長三——誰、同、金殿

堂々——深、

位裡不能収之透。

二透之初

初、萬機休罷——携。同、如薪尽——。同、指頭築——(23

才)身。同、家破人亡。同、蛇脱皮——骨。同、一死更

——活。

人境双忘之筋目。

中、寒炉無火——堂。同、唯獨自——見。同、深固幽——

到。同、深徑——苔。

照用双忘筋目。

後、宝殿無人不侍立。同、苔封宝殿——侍。同、玉殿苔生。

同、不種梧桐——来。同、臣主相忘——寒。

三透之初

初、湘之南兮——北。同、有亦莫将来、無亦莫將去。同、到

江吳——多。同、背觸共非。同、過不及共非。同、有是

不有、無是不無。

當頭之筋目。

中、月舩不犯——岸。同、古渡無風——午。同、無影樹下

——舩。

當頭不犯之筋目。

後、位裡無方偶。同、位裡——背。同、瑠璃殿——識。

正當之筋目。(23ウ)

法眼宗之一透

初、江国春風——裡。同、煩惱即菩提。同、常在於其中、

——臥。同、當位即妙。同、當處不離——然。

當位即妙之旨、不歷達本源故也。

中、當処即是——城。同、瑠璃壺——葉。同、銀碗裡——雪。

同、當処不離——然。

正當不卓之旨。私云、此ヲ一色中ノ異ト云也。

後、天然貴胤——功。同、貴裔非常種——尊。

本有天然主不改之旨。私云、帝王ノ種ト云也。

二透之初

(初)、百姓日用不知。同、從來俱住——知。

六祖道底。私云、碓ヲ踏ゴトニ移レ步忘脚。

中、脚踏當門——方。同、月明月——秋。

墮之筋目。私云、三位共墮也。

後、王不存——位。同、樞密——旨。

尊貴墮之境界也。

三透之初

初、盡十方——珠。同、坐——當。同、石頭——小。(24才)

同、万里——鉄。同、三界唯一心。同、取不得捨不

得。同、法々住自位。

絲毫未举揚之旨。

中、樓閣千家——秋。同、古渡風清一片秋、月色——。

(水)天難弁——秋。同、圓同大虚——餘。同、十分清

白一圓月。

獨之筋目。

後、徳合乾——盛。同、王道太平無忌諱——流。同、王令稍

嚴。同、妙徳寰——朗。同、縦横妙——化。

王化普通之旨。

對帶之透

初、吾臺^(五才)拍手——笑。同、張公吞酒——。同、不落不昧。

同、懷劬牛喫——腹。同、水中塩味——。同、鏡欠圓

——方。

一位¹兩位故、私云、全ク無^二二種^一故也。

兼帶之透

中、野雲横山、明月逐浪流。同、天共白雲——。同、黒狗爛

銀——騎。同、大陽門下日々——夏。

正独不立故。(24ウ)

双對之透

後、同、唯佛与佛——尽。同、葵花向日——風。同、頭長三

尺——寸。同、青天白日。

知与不知對也。

ハキソエ、那边退得——覆。同、他是阿誰。一説在リ。路

上有——行。

夜参作法面七透之分。

此外^テ以^テ此首句^ヲ可行者也。

一、身心脱落。二、照尽体無依——道。三、通身——像。

二、視自己——家。二、踏断清白十分雪去。又、莫守一色

処。又、推倒雪獅子。

三、那時一步要惺々。

夜参行之作法。

夜参之目錄

初、案山——。木人功盡——針。紫極宮——卵。(25才)

中、芥納須弥周徧十方身。金枝敲玉戸声——。頭長——寸。

後、吾臺拍手峨眉笑。木鷄啼子夜、蕪狗吼天明。日面佛

初、如薪尽——。智尽功忘。樞密不得旨。

中、父母所生——。水天虚——光。芦花明月不_レ似_レ他。

後、轉得山河大地皈自己。文殊頭白、普賢頭黑。三世諸佛

——知。

又、夜參之目錄

一、鉄樹放開花。又、犢牛児生。又、案山點頭。

二、丹鳳不棲梧。又、鶴出銀——漢。又、退步承當——新。

三、頭長三尺——。又、累垂鼻孔——尺。

一、萬機休罷。二、深固幽遠——到。三、密室爛如泥。

一、湘之南潭之北。二、月船不——岸。三、位裡無方隅。

(25ウ)

一、百姓日用——。二、身橫當門功用——墮。二、樞密——

旨。

一、常在於其——、江國春風——裡。二、當処即是——。

三、天然貴胤——功。

一、尽十方——珠。二、樓閣千——秋。三、妙徳——朗。

一、丙丁童——。二、天共白雲——流。又、黒狗——騎。

又、大陽門下日々三秋、明月——九夏。三、王居門裏

——戸。又、三世諸——有。又、照体——有。

夜參目錄之終

法華經文出筋目

初一、如薪盡——。初二、深——到。又、唯獨——見。初

三、從冥入於冥。(26才)

尽十方一——珠之透

中一、是法平等——下。又、如稻麻竹——刹。中二、如淨

——像。中三、案(マ)穩法樂、天人熾盛。

自己對帶

後一、及見佛功德、尽回向佛道。云心ハ、及見佛功德ト云ハ、

守_テ口_チ収_ニ意身_一。莫犯尽回向佛道。ト云ハ、如_レ是行者得度

世也。佛道トハ、柳ハ緑、花ハ紅也。回向ハ、メグリムカウ也。

又、心佛及衆生、是三無差別。守_レ口_ハ惡口_・両舌_・奇語_・妄

語也_レ収_ニ意身_一〈貪瞋癡也〉、莫犯_ハ殺生_・偷盜_・邪淫_レ、

如是行者得_ニ度世_一ストハ、目前也。

後二、其地瑠璃坦然、正閻浮檀金。云心ハ、瑠璃ノ平ナ処ニ、

閻(26ウ)浮旦金ノウツクタワ、正也。瑠璃ハ、(偏_ニ)徧也。又、父幼而

子老。

後三、唯佛与佛——尽。又、尔時大衆見——来。又、一分奉

釈迦牟尼佛、一分奉多宝佛塔。ト云ハ、多子塔前ニ、半坐ヲ

分タ_リ也。多子塔前トハ、多宝塔前ノ_リ也。多——前トハ、

佛之金銀瑠——、七宝其外種々ノ宝珠ヲ以テ、クミタル塔也。

七宝ニコエタルニヨツテ、多宝塔ト号ス。其ノ前ニテ、迦葉ヲ

弟子ニ御取アル也。釈迦ワ、至覺ノ佛ナルニ依テ、一分奉釈迦——塔ト、犯メクルシカラヌ也。迦葉本覺ナ呈ニ、不レ犯多宝佛塔ト云テ置ク也。不犯ノ語也。一分奉トハ、一坐具ノ一也。兩人ノ敷ク故ニ云也。

一、善入佛惠。是ハ、案山點頭ノ透ナレドモ、句法ハ、佛惠ニ入ト云趣キヲ取ルヘシ。佛惠ニ入ルト云ヨリ、大智ニ通達ト對、彼岸ニ到ルト對スル也。初中後共ニ取_一ハ、出句ノ如クナルヘシ。(27才)二、通達大智。三、到於彼岸。

異類之筋目

一、犢牛兒生。二、白牛雪行無蹤_下覓_上、功尽超然体皎融。白牛飲尽無源水、天曉乘_レ風過_ニ玉関_一。三、累垂鼻孔——尺。又、牛帶寒鴉——村。又、誰知黑猫兒——。

當頭之透

一、不墮前後、穩坐牛背。又、龍吟初夜後——前。二、玉人端坐白牛車。三、牛頭按尾上。

自己對帶

一、懷州牛——腹。又、新婦騎——牽。二、物外獨騎千里——鐘。ト云心ハ、物外ハ、正也。千里象ハ、徧也。万年(27ウ)トハ、徧也。金鐘ハ、正也。枯尽万年松、ト云呈ニ、松ハヒキタ也。又、在所ヨリテ、正モ用也。又、黑狗爛——騎。三、三世諸佛——有。又、始信南泉——牛。又、若欲枯牛異——別。

花之累之筋目

案山卓頭之透

水寒千丈——蓮。又、大華山起——有。還將錦櫻鶯花——圖。又、芦花飛出不_レ見_レ跡。無陰陽處有瑞花妙。宏智語也。昨夜春蘭風雨惡。和根——花。云心ハ、蘭ト云ハ、人ニ付也。又、分破花山——、ト云心ハ、人境双忘ニハ、八千里ノ人家滔了シタゾ。又、蕙死蘭枯菊亦摧。前ノ心ヲ以テミベシ。竹寺閑過——色。又、門庭無人掃、桐山語也黄花幽居封。宝殿人不見、啣花百鳥空。(28才)

法眼宗

尽十方——珠透

菊垂金秋——轍。又、十方世界花一樣。又、春入千林處々花、秋——月。又、芦花兩岸開、水天秋一色。又、雪覆芦花。村々花柳含_ニ帝德_一。江國春——裡。宿鷺亭——花。又、百花繁處是長安。又、笑入——遊。又、不惜黃金——。又、花顏柳髮錦衣粧——戲。

當頭之透

万仞獨足立、東西花爛。又、手不_レ攀_レ枝、足不_レ踏_レ樹。又、滿身花影月三更。又、南花北枝月輪央。又、破窓臘雪深、春未到梅心。云心ハ、トツ、ト極テ、マダキザタヌト云ハ、當頭用所也。又、妙明田地豈涉春緣。是モ、前ノ心也。(28才)

自己對帶之旨

花簇々錦——。又、春風自雖南北分、畢竟枝梢共一根。水帶落花香、烟和楊柳青。云心ハ、水ハ正也。落花ハ偏也。烟ハ偏也。楊柳ハ正也。又、黄金堤畔柳。白雪嶺頭梅。云心ハ、黄金ハ正也。柳ハ偏也。白雪ハ偏也。梅ハ正也。葵花向日——花。又、拈花微笑。

山形類之出筋目

案山点——。白雲斷處家山妙。了々天童語也透過深山中。

當頭之透

万仞峰頭獨立。又、挾路身難轉、東西尽是山。千峰月照更無月。又、中峰明月、影失溪邊。星前人——由。云心ハ、星前人ト云ハ、見明——道以前ノ人也。臥千峰室トハ、一処定メテ在処ヲ指ヌゾ。方隅ナキ也。那時ノ當頭也。(29才)

相好形山巍々異、天生岩斑如聖容。曹山不變異答也。又、山是大人相。

吾臺拍手——笑。又、須弥南畔——毬。

野雲依山——月。又、青山常運步——兒。又、白雲青山迷根——。雪覆千山、孤峰不白。

鷲肱割肉——鉄。又、乾竹絞汁。又、屏風雖——存。又、手把寒天——衫。

薪尽火滅浦也。觸破清虛更——。又、青天猶喫棒。又、透網金鱗猶滯水。無為無吏底人——難。又、不風流處也——。

又、無心猶——関。又、搗倒孤峰不白處、全身猶墮荆棘林中。百姓日用——知。月明月——知。王不存王位。(29ウ)

轉凡入聖透。

一口吸尽西江水。十方同聚——為。云心ハ、無為ハ、位裡ノ聞耳也。呈、轉凡ニモタセタゾ。又、心空及第皈。

人境双忘透也。

万機休——携。深固幽——到。玄功路絶處、安住不死人。云心ハ、玄ハ主、功ハ臣、路絶スレバ、臣主双忘也。処コゾ、不死人ヨ。人境双忘ノ透ナガ、ト云。定テ不審アルベシ。アレドモ、不死ノ人ト云ハ、臣主ノ沙汰ノ無イ処ヲ云タゾ。臣主ノ沙汰ヲセバ、不死ノ人ニテワナシ。

當頭之透

到江呉地——多。又、月船——岸。又、偏正——機。鷲肱——鉄。觸破清虛——虚。頭回松間路——明。云心ハ、松間ノ路ニ到底シタト云モ、マダ照ガアルゾ。削也。松間路ハ、智不到徹底也。照用双忘ノウラナ呈、徹底ノ処ヲモ、マダ照用ガアリ、ト(30才)云義也。那边退得——李。云心ハ、那边ニ居テ居タト知ラヌ時、這裏行履也。這裡トハ、那边也。那边ト知ラヌ時、那边也。無為無吏底人ヲモ、猶——ト云ハ、無為無吏ニモシトメヌ也。削様也。又ハ、那边至極シタト云モ、マダ這裡行履ゾト削也。這裡トハ、功勳光影也。此ノ句ハ、コタ斗テ、此句面也。

峨山和尚之法語ヲ以行旨

轉凡入聖透

驀直踏著本有田地。物表獨進誰親。云心ハ、那邊也。独進ト云ハ、轉處也。ソコエハ、タレモ親ヌゾ。玄処有路、妙中有信。

轉凡入聖透

實際理地——一塵。云心ハ、實際踏著ノ時節、塵ヲ受ヌゾ。誰知遠烟浪——量。了々々時無可了々。(30ウ)

轉凡入聖透

樹上答易——難。云心ハ、易ヲサケテ難ニ逢、入聖ノコ也。

動容揚古路——機。黑白未分已前過。

當頭無始末。孤明獨照。渠無背無。

當頭——末。無影樹——舩。位裏無向背。

到江呉地——多。無影樹——舩。位裏無方隅。

到江——多。月舩不犯——岸。位裡無紋彩。

到江——多。月舩——岸。本來無東西。

自己對帶

鏡欠圓——方。虚空合其体——用。王居門裏——戸。

鏡欠——方。天共白雲曉——流。合面睡着。

古長老御行分(31才)

案山点——。白雲功尽——秀。透過那邊——路。

案山点——。丹鳳不栖梧。透過那——路。

案山点——。玉籠飛出——兒。金殿堂——深。

案山点——。老鶴移——巢空。瑠璃殿上——碎。

鐵樹放——花。老鶴移——巢空。瑠璃殿——碎。

鐵樹放——花。鶴——銀——漢。透過那——路。

鐵樹——花。丹鳳不——梧。透過那——路。

鐵樹——花。白雲功——秀。瑠璃殿——碎。

鐵樹——花。灵木超然鳥不栖。高僧不坐——臺。

犢牛——生。玉馬過——夜。累垂鼻——尺。(31ウ)

犢牛——生。老鶴移——空。透過那——路。

犢牛兒生。丹鳳不——梧。瑠璃殿——碎。

犢牛——生。鶴出銀——漢。金殿堂——深。

万機休罷——携。唯獨自——見。梧桐不——来。

万機——携。深——到。苔封古殿——侍。

万機——携。寒炉——堂。不種——来。

万機——携。唯獨自——見。玉殿苔生。

如薪尽——滅。唯——見。宝殿無人——来。

如薪尽——滅。寒炉——堂。不種梧——来。

如薪尽——滅。深固——到。不種——来。

如薪尽——滅。唯獨——見。不種梧——来。(32才)

如薪尽——滅。唯獨——見。苔封宝殿——侍。

指頭築破——身。唯獨——見。不種梧——来。

指頭築——身。寒炉無——堂。玉殿苔生。

指頭築——身。深固——到。宝殿無人——来。
 指頭築——身。唯獨自——見。不種梧——来。
 湘之南——北。月船不犯——岸。位裡無方隅。
 湘之南——北。午日無影。位裡無方隅。
 有亦無将来——去。月船——岸。位裡——隅。
 有亦無——去。午日無影。瑠璃殿——識。
 有是不有——無。午——影。位裡——隅。(32ウ)

法眼宗自己之分

江國春風——裡。當処即——城。天然貴——功。
 江國春風——裏。當処即——城。貴裔常——。
 江國——裡。不離當処——然。貴——尊。
 坐底坐受——當。樓閣——秋。德合——際。
 坐底——當。樓——秋。縱橫妙展——化。
 坐底坐——當。樓——秋。王令稍蔽。
 坐底——當。樓——秋。王道——流。
 尽十方——珠。樓閣——秋。妙德貴——虛。
 尽十方——珠。樓閣——秋。縱橫妙——化。(33オ)
 尽十方——珠。圓同大虛——餘。王言如絲。ト云心ハ、此ノ
 一句ヲ以テ、天下ヲヒツ、ラ子タゾ。
 百姓日——知。脚踏當——方。樞密不——旨。
 百姓日——知。脚踏——方。王不存——位。
 百姓日——知。脚踏——方。王不存——位。
 百姓日——知。十分清白——忘。王不存——位。

百姓日——知。類ノ而不齊、混而不雜。云心ハ、類スルト
 ハ、十分ノ明月也。不齊トハ、秋ヲ不知義、末ノ句モ上同也。
 大用現前——則之旨也。

樞密不得旨

左視右視只——。樓閣——秋。縱橫妙——化。
 左視——。樓——秋。妙德——虛。(33ウ)
 石頭大底大——小。樓閣——秋。妙德——虛。
 石頭大——小。樓閣——秋。王道——流。

自己對帶之分

不落不昧。物外獨——鐘。三世諸佛——有。
 張公——碎。物外——鐘。唯仏与佛——尽。
 吾臺拍手——笑。野雲依山——月。唯佛与仏——尽。
 吾臺拍手——笑。白雲迷——腹。日面佛月面佛。ト云心ハ、
 王ト后キ、御座アル処ニ、日輪殿月輪殿アリ。日輪殿ハ、天子
 ノ方ニアリ。月輪殿ハ、后キノ方ニアリ。相對ノ造也。不安
 ノ時、句面別也。活句ノ筋目也。
 懷州牛——漲。物外——鐘。三世諸佛——有。(34オ)
 吾臺拍——笑。野雲依——月。日面佛——佛。
 吾臺拍——笑。野雲依——月。人平不語——流。云心ハ、人
 平——トハ、一致ノ処ヲ云タゾ。隔夕時、語ワアルモノゾ。
 只ヒトツニ成夕処ニ、語ハ無ゾ。水平——ト云モ、双對ノ処
 ヲ云也。至本一二合ノ、片落又用所ニ取ル也。折敷ナドニ、

水ヲ一盃入テ見ヨ。少モカタムケバ、コホルタゾ。

吾臺——笑。天共白——流。人平——流。

懷芴牛——腹。黒狗爛——騎。駙視井——駙。

懷芴牛——腹。黒狗——騎。三世諸佛——有。

新婦——牽。云心ハ、新婦ト阿嫁ト云ハ、一ツ夕子也。物外

——鐘。照体共——裡。

花簇——木。物外——鐘。唯佛与——尽。

懷芴——。木鶏啼子——明。三世諸——有。(34ウ)

懷芴——。瑠璃殿上——毬。三世——有。

寒山樹堂——笑。白雲迷青腹。人平——流。

案山點頭。又、鉄樹——花。又、犢牛兒生。丹鳳不——梧。

又、白雲功尽——秀。又、玉籠飛出——兒。又、木人功尽

——針。又、月落星暗——乾。又、夜舩撥——地。又、細中

移步——箆。又、掲開金鎖——異。又、照尽——道。又、玉

馬過関——夜。又、退步承——新。又、鶴出銀——漢。又、

老鶴移——空。又、功到無——高。又、張鷟尋——倚。又、

靈水超然鳥——。又、白牛雪裡無覓跡、功尽超然体皎融。

又、白雲断處——妙。透過那辺——路。又、瑠璃殿上——

碎。又、高僧不——臺。又、累垂——尺。又、頭長三(35才)

尺——寸。又、金殿堂々——深。万機休罷——携。又、如薪

尽——滅。又、指頭築——身。又、一死更不再活。又、寒炉無

火——堂。又、唯獨——見。又、深固幽——到。又、深徑苔

生。宝殿無人——来。又、苔封宝殿——侍。又、不種梧——

来。又、玉殿苔生。又、湘之南——北。又、有亦無——来。

又、有是不有——無。又、到江呉——多。挾路身——山。

又、過不及共非。又、背觸共非。月舩不——岸。又、午日無

影。又、古渡無風——牛。又、無影樹——舩。又、空王殿上

——音。又、位裡——隅。又、位裡無向背。江國春——裡。

當処即——城。又、瑠璃壺——葉。又、銀椀——雪。又、不

離當處——然。又、深固幽——到。又、深徑苔生。宝殿無人

——来。又、苔封宝殿——待。不種梧桐——来。又、玉殿苔

生。(35ウ)天然貴胤——功。又、貴裔不常種、天生位至尊。

百姓日——知。又、終日携鋤——重。又、不知泥裡蚌——

珠。

脚踏當門——方。又、類而不齊——雜。又、月明月——秋。

又、十分清白——忘。又、不存功賞銀河界。

王不存王位。又、樞密不得旨。

坐底坐受——當。又、石頭大底——小。又、尽十方——珠。

又、左視右視只是々。又、取不得捨不得。又、万里一條鉄。

樓閣千家——秋。又、圓同大虚——餘。又、古渡風清——

照。又、十分清白一圓月。又、白銀世界瑠璃地——埃。

德合乾坤——盛。又、王道太平——流。又、王令稍嚴。又、

縱横妙——化。又、妙德尊寰宇、高明太虚朗。(36ウ)

吾臺拍手——笑。又、張公飲——醉。又、不落不昧。又、懷

芴牛——。又、寒山不語——笑。又、新婦駢——。又、花簇々錦——。又、通身刺着——忍通。又、水中塩味——青。

又、須弥南——毬。又、渠是具足、此具足彼。又、鏡欠——方。又、野雲依山——月。又、物外獨——鐘。又、黒狗——騎。又、木鷄啼——明。又、夜月有輝——秋山。又、風前月樹——宿。又、万季松徑——。又、青山常——児。又、木帶落花白——青。

三世諸——有。又、唯佛——尽。又、照体——裡。又、人平——流。又、毫釐有——。又、日面仏月面佛。又、金針双鎖備。又、葵花向日——風。又、王居門裡——戸。又、若欲——。又、北斗南星——(36才)異。又、頭長三尺——寸。又、青天白日。又、古鏡——鏡。

○爰ニ、月江和尚之置文アリ。別紙ニ在ル仍而不レ書也。案山點頭・死活當頭之時節、不レ可レ見ニ釋迦達磨。今時大善知識一度案山之境界ニ至ラデワ。案山ハ、死活當頭之驀境イデ、案山ニナル也。衲僧ハ、案山ノ境界ヲモ承當スレバ、悟得ノ塵垢トナル間、必其ヲモ點頭セデハ。點頭ワ、点却也。是ヲ無支上ノ無支底之衲僧ト云也。其ノ上ガ、聽而智不到也。智不到ノ処ワ、深固——到ノ境界也。又、此々テ人ト云ハ、釋迦達磨也。釋迦達磨社ゾ、無支底人ヨ。呈社、佛智祖智ガ、不レ到也。智不到ノ点処、照尽体無依、通身合大道。是レモ、

通身ノ境界去テハ、大道ニハ合レマイゾ。經尽くノ胸懷柄リト、而ノ社通身ヨ。無影像デハアレ。(37才)瑠璃殿上——碎トハ、何セニ分碎而ゾ。ナレバ、此主ノ在処ハ、古堂・空堂・虚殿・虚堂也。宝殿・金殿・紫極殿・瑠璃殿・鳳凰臺ナドワ、尊貴證明ノ、君ノ在処也。粉碎ト云エバトテ、アラケナク打破而タコデハ無イゾ。參禪可レ有レ之。始中終同心得ナリ。久參上士、句中一字二字擇テ、嫌道勘弁スベシ。

正師耳在之(月江正文ノコト也)。自己目前一致トハ、打破テ大道ノ如クニナツタル境界、自己ナリ。ソコロ一毛モソカサヌガ、目前ノ大道也。目前ノ大道ニ交ギルタコト在之。其ヲ一致トナス也。是レヨリ心得一説アリ。

參禪可レ有レ之。ニカ一チニナルハ、惡句也。一カニニナル句法、好キ也。一ツカニツニナルト、心得大支也。自己踏著ノ処ヲ、足踏ニ実地ト云也。ソレバカリテハ、宗旨ヲ不レ立間タ、目前ノ路チ立テ、出世ノ足シヲ出ス。出世ノ足シ、不出世ノ足ヲ一致トナス也。古人、是ヲ兩足尊ト云也。(37ウ)畢竟心得口傳兩人在之。

智不到之兼帶ハ、正斗計モ、衲僧向上ノ好手トテ、人不レ知也。偏位ヲ以テ兼ニ正位ニタリ。偏位計モ一手也。右、人ノ偏也。以示、休覚垂々難明。此故偏中加レ正、々中兼偏是也。丹霞云、展手窺ニ正位、拳中發ニ万物、ト云モ、是也。大覚世尊生下、一手指天一手指地、是也。是ハ、佛位ノコト

也。於^ハ宗旨家^ニ、正計モ偏計モ、方落也。又、智不到独在不点ノ境界ハ、如何共弁別シ難キ間、雪月・芦花・玉鏡・秋水相合^メ、無^ニ弁処^ゾ。豈以テコトワル也。是ハ、古人不犯ノ境界ヲ云也。又、智不到ヲ將軍家ニ取ル心ワ、將軍ハ塞外アリナカラ、内裡ノコヲ手ニ取テ覚ユル也。智不到ニ正位アルコトワ、是也。月船——岸、無影——船ハ君ヨ。水ハ臣也。位裡ノ双對、王居門裡——戸トハ、是ハ、君臣合道也。子親^ニ就^レ父正心合^ス。又、還(38才)不^レ知有^レ子趣^キ、曹山被^レ仰、是也。王子ノ父ノ位ヲ望ム時キ、父王主位ヲ全不^レ退也。慕此對談也。サテ社、間不^レ容^レ髮也。

亦、唯佛——究尽トハ、佛位對々也。妙覺等覺ノ位也。妙覺、本有ノ如来也。肌ガ其ノ俚ノ袈裟也。等覺ノ如来ワ、世尊也。是ハ、五十二位ヲ經テ、至テ妙覺ト對談スル也。引云、始知衆生本来成佛——夢。始知衆——佛トハ、張三李四ノ肌ガ、即チノ袈裟也。在レドモ、我ガ掛タト思^フヲ知ラヌ也。去テ社、本有ノ佛性也。コナタヨリ看レバ、如^レ是也。生死涅槃——夢トハ、生死即涅槃也。早竟本則引合テ、参禪細密也。夜参行様子ハ、口傳在之。

無極慧徹在判

附与月江正文首座

華叟正尊代々枝深附与正桃々々附与正仙々々附与正芳(38ウ)々々附与文的三

祥雲山龍泰寺夜参盤之終也。

皆慶長十二年(丁未)小春吉辰(花押)

枝心ヲ代也。

万機休罷處、一曲韻私無。代、幾度醉皈明月夜、笙歌引入畫堂前。取句、不惜黄金成彈指。(39才)

〈終わり〉

資料(二) 叡山文庫藏『宗門密參』

〔原表紙〕

「山門本院南谷／浄教房／宗門密參／實俊」

〔表紙裏〕

「永平開山在唐秘參」

山門東塔南谷 浄教房 真如蔵 百五十四 惟

曹洞宗廿七段之目錄

自己三段向去也

(1) 自己之自己 万機休罷之透

(2) 自己之中 醒處之透

(3) 自己之向上 安心之透

智不到三段向去

(4) 智不到之最初 愚智之透

(5) 智不到之中道 妄智之透

(6) 智不到之向上 寂智之透

那時之三段向上(去カ)

(7) 那時之最初 那邊之透

(8) 那時之最中 至到之折角透(1才)

(9) 那時之向上 相續之透

向去終

却來九段出派

(10) 自己之自己 位裡点側之透

(11) 却來之自己之中 化度之透

(12) 却來之自己向上 為人之悉檀之透

却來智不到三段

(13) 却來智不到最初 禪定三昧之透

(14) 却來智不到中道 鳥道之透

(15) 却來智不到向上 功極之透

却來那時之三段

(16) 却來那時最初 孝滿之透(1ウ)

(17) 却來時中道 賓主不到之透

(18) 却來那時向上 仙境之透 向去終

行李九段・出派

(19) 行李自己最初 村裡底之透

(20) 行李自己中 村裡底醒処之透

(21) 行李自己向上 村裡底無事之透

行李智不到三段

(22) 行李智不到最初 入派將軍之透

(23) 行李智不到中道 將軍汗馬功之透

(24) 行李智不到向上 將軍功極之透

行李那時三段(2才)

(25) 行李那時最初 王道不点之透

(26) 行李那時之中 王道本分之透

(27) 行李那叱極則 王化徳用之透

目錄終 向去之終

皆外科段之沙汰、古人拈提有ニ数多。不レ可ニ勝計。此之一冊者、捻綱要也。(2ウ)

〔目錄終〕

山門東塔南谷 浄教房 眞如蔵 百五十四 惟

△曹洞宗廿七段之参禅 向去、九段之分

(1) △自己之自己最初

万機休罷。師云、休罷シ羊ヲ。拳ス、至テ師ヲホカト躍スル。師云、兼當着語。拳ス、一死更不ニ再話。心得、万機云、有相色機ナリ。人我相ステス。六塵犯夕間事。休罷トワ、二字ニ、ヤムルトヨメリ。最初、一句契當スル処デ、諸縁万境有爲点變道理、クツトヤメタソ。迷情ステ、悟一辺。爰身心脱落云タソ。五尺境界分散シテ、六根不到心地落着スルヲ、身心(1オ)脱落云。脱モヌクル処。身心ガ蟬モヌケノカラノ如、カラリツトナツ成タ。故、我山崩裂云タソ。我山、身心ナリ。崩裂、クツレサクルトヨメリ。亦死生脱却ノ処タゾ。躍倒、フミタヲストヨメリ。一句當着時節、先師知、我忘タゾ。ホトニ、ホカトケル端的ハ、爪先マデ發、一心タソ。是ヲ心光ノ發スル云タ。句、一死トハ、万機休罷端的ハ、

死人如タソ。前後ワキマエズ、色相分ヌゾ。ホトニ、更再活セヌゾ。當リ派ヲツヨク云ウ為メタソ。死人デ指シ透ヌ時キガ、空劫本(1ウ)分當着タコトヨ。悟間ダヲ肝要持タ見解ト云タソ。迷悟ニ立セヌ処、大悟云ナリ。大悟悟無シト云。是入頭云イ、死活當頭云ナリ。衲僧一世源ガ明クゾ。アレハ、今大活現成タトミレバ、始メヨリスク目付ヌ肌ユニワラトルゾ。アレハ、人我ノ相ヲハナレタ処ヲ、孩児色相ヲ分別セヌ肌トルナリ。故、理即正体沙汰スルゾ。亦本分自己トワ、空劫自己云、最初ヲバ、當体自己ト云ナリ。一句契當処ハ、空劫徹スル故、自己本分云ナリ。久遠今時不(2オ)ニナリ。休罷処、通身色相ハ無イゾ。閻老子モ、色相ノ処、鉄棒ヲ當ルゾ。無我相ノ空体ニ、鉄棒ハアタラヌ。亦出家ハ、最初ヲ悟ラヌニ仍輪廻スルゾ。一句契當スレハ、六道四生ニ遊戯三昧ナリ。濟家、此一段、末後向上ニ至ルゾ。故、一句宗風ト云ナリ。曹洞ハ、向去ガ九段、却來ガ九段、行李ガ九段デ、合テ三九廿七段ナリ。五十二位ヲ、二七ツ、メ分ツナリ。廿七ヲ三位配立シタソ。三位トワ、那時・智不到・自己ナリ。空假中三段、三位ニ當ルゾ。(2ウ)空那時、中智不到、假自己、化度入派ナリ。顯密禪云ヘハ、濟家禪、段ノ修行無シ。曹洞、六即五十二位ヲ学スルゾ。

(2) △自己中・醒處

煩惱即菩提、生死即涅槃。師云、即的位云。拳、至テ卒度ケ

テ皈。師云、美當着語、拳ス、通身無頭像。心得、是自己中ナリ。醒処云ナリ。万機休罷ノ処醒ノ見ルコゾ。悪クスレハ、悟犯サレテ、一世道ニ安着セヌゾ。悟了同未悟ノ肌エタコゾ。煩惱ト云ワ、滲漏ノ妄想ナリ。貪嗔痴(3オ)ノ三毒ニ惱乱セラル、六塵ノ機ヲ、最初デクツトケ切タゾ。涅不生、槃不滅ダ。不生不滅ニ落ヌ中道ヲ、即心即佛云タ。時キ、煩惱ガ即菩提、生死ガ即涅槃ダ。如此クハ、醒處デ思イ得タ時キ、生死不二、邪心一如ダ。空劫誰ソナリ。此一段デ悟ヲ醒ノ本分ヨク心得タ。捨別一ヲハ拳スガ、二ヲバ拳シカヌルゾ。古人モ一挙ノ、二挙コヲ不得ト云タ。二挙セバ向上一窮知ゾ。濟家ニハ、二ノ拳処ハ無イ。即ノ端的ト云ワ、(3ウ)前後ニタヨラヌ、自知自性ヲ云タゾ。即ハスリ目ツカヌ字ダ。即ヒヨメバ、知解ナルゾ。即マデヨ。時キ煩惱ガ菩提、生死ガ涅槃ダ。二足ニフマヌコゾ。拳処、始メノ躍倒ノ足土ヲ固サヌコダ。卒度ケタニ力量出ヌ。句ハ、通身ハ全身ナリ。影像ハ迷悟ナリ。空体ノ本分ニ影像ハ無イ。爰ヲ本源自性天真佛ニ云タゾ。通身ニ内外無イニ云ゾ。全体ニ皮骨無イゾ。時キ、鉄棒ハアタラヌ。四大影像(4オ)ナリ。空体ニ色相ハ無イゾ。空ヨリ出テ、亦空皈ト云ハ、本分自己ニ皈ルヲ云タゾ。出家ハ名利ステ、修行セズンバ、鉄棒招クズゾ。无欲ガ鉄棒放下タゾ。地水火風空ヲヨク心得ズンバ、安心得難イゾ。安心ヲ得ルガ、妙覺ノ果滿ナリ。

(3) △自己ノ向上・安心

深固閑遠、無人能到。師云、能ク到リ羊ヲ、拳ス、至テ安閑トノ堅ス。師云、美當着語。拳、無心退ニ得無心道、退得無心道也休。心得、是、自己(4ウ)向上ナリ。安心処ト云ナリ。始醒處心地ヲトツクト靜、安閑無事行李ヲ云タ。深固閑遠ワ、安心ノ処ゾ。最初デ、意識ノ塵勞ヲクツト拂、醒処デ無事ニ落着タ。我國安全心地ニナツタヲ、向上安心ノ處デ、無人能到トハ、人相出境界ナリ。爰ヲ經文ニ、以大圓覺、為我伽藍、身心安居、平等性智、ト云タ。大圓覺ヲ以テ、我が伽藍ト為タト云タハ、醒処處ガ、清淨ノ伽ランダ。大圓覺ト云ニモレタコハ無イ。時向上(5オ)安心処ニ至テハ、身心安居シタゾ。少シモ迷悟凡聖ノヘダテハ無イ。時ガ、平等性智ナリ。是ガ閑遠地ヨク到リ羊ダ。ホトニ、拳処ハトツクト墜タ正當、大智ガ現前、大智ニ到レバ、万法ニクラキコハ無イ。亦タ大智ノ出ヌ羊ニ、安心セテハ。大智無心ナリ。無心ヲ退得ダ。時キ、十方通達ダソ。其ノ無心道ヲモ亦休スト云ワ、愚ノ肌云タ。愚時キ、本智ガ現前メ、サテコソ、自己ノ向上デワアレ。此ノ上ヘノ一段、愚智ガ根本ナリ。(5ウ)大智間タノ智到ラヌ羊修スルガ、中道ナリ。自己三段終ナリ。

(4) △智不到ノ最初・愚智

唯獨自明了。師云、明了シ羊ヲ。拳ス、閉口ノ堅。師云、美當ノ着語ヲ。拳、鉢盂向天底時節。心得、始自己ノ向上

デ、大智ヲ發タガ、此段デ其智不到タ。智着ガアル。自己智、生智ナリ。耶時智、真智ナリ。中道ノ智、愚智ナリ。不到トハ、智惠出デ処ヲ肝要シタゾ。智不到三段ヲバ、独在ノ地云ナリ。(6オ)獨前後左右ハナレテ、自智ノ行下修ナリ。サテ亦、前後ヲカヌゾ。挙着見解ライムナリ。首句ハ、唯ダ獨リ自明了ルト云ガ、独ノ當人ヨ。閉口トハ、クチヲトジタゾ。口ヲ開ケバ、智ガ出ル、愚智ニ説示ハ無イゾ。只タアツカト坐シタハ、孩児ナドノ肌エト一ツヨ。句ハ、鉢孟トハ、鉢子ノコゾ。アツカト坐シタワ、カラバチノ口ガ、天ニ向テアル如タゾ。時節トハ、其端的ナリ。經説、摩訶般若トハ、摩訶大也、般若智惠ナリ。大智翻譯(6ウ)タゾ。大智ハ、無心・愚智ヨ。此ノ肌ヲ心經云ナリ。心經ハ、愚智心ナリ。時キ、經トハ、スジナリ。ドツコモ、此心ズジノトカヌ処ハ、在テコソ。唯獨自明了トハ、心經明了シタゾ。達磨云、其智可及、其愚ニハ不可及ト云タゾ。亦、空却已前、智ハ無イゾ。愚智ヲ天真自性ト云ナリ。爰ヲ名字即トルゾ。修行最初ナリ。無修行者ガ智ヲ出ゾ。獨在自知ノ人、口外セヌゾ。

(5) △智不到ノ中道・妄智

天上天下、唯我独尊。師云、独尊ヲ。(7オ)挙ス、兩手ヲ展開ノ亦握。師云、兼當ノ着語ヲ。挙ス、推与挽主ニ車行。心得ハ、妄トワ、識情妄相ナリ。愚智肝要ト持ツモ、妄智ト云タ。其ノ妄智ノヤンダ処ヲ、不到ノ中道ト云ナリ。中ハ、

上下ヲカヌルゾ。天上、那持空処ナリ。天下ハ、自己假処ナリ。智不到三段ノ中カヲ、中道ノ本処ト指スナリ。独尊ハ、本分主ナリ。此人、向上向下ヲカヌ、車、上下ハ通物ゾ。是非始終一致ナリ。一段ノ修行ヲ頓々点ズルニ仍テ、(7ウ)中道・圓相・圓頓云ナリ。爰ヲ、天真獨朗ノ本分云タ。挙処ハ、兩手ヲ、左逆、右順ナリ。展開ハ、ノベヒラクゾ。天上天下、展開ナリ。亦握上下ニ、独在主ノ手中ニ収マルゾ。句、車使フニハ、鈎錐ト云テ、鞭ニカギヲ付テ、前カルニハ錐用、後トムルニハ鈎用ルゾヲ、推ト挽ト云タゾ。車行ワ、ノリテナリ。主シトハ、自由ニスルギゾ。是、独尊ノル底人ノコゾ。学者ヲ接スルニハ、師家接処ガ肝要ナリ。故鈎錐手段云ハ、(8オ)師家行處ヲ云ゾ。車ハ圓形ナリ、心ノ字ナリ。心車ト云ナリ。一心ガ上下通ルナリ。車ダ、橋ダ、船タト云ハ、此一段用物ゾ。上下自由ノギナリ。此岸、彼岸、中道用、船ダ。向上向下渡橋ダ。此地卅年修行功尽、仍、此段ヲ規行即云タゾ。是ワ、智不到中道、一色一處地云タゾ。畢竟一心通処ニ仍、通不犯云ナリ。

(6) △智不到ノ向上・寂智

玉輪機轉笑呵々。師云、卓処笑。挙ス、至テ師面ヲ合テ微笑ナリ。師云、(8ウ)兼當着語ヲ。挙ス、瑠璃殿上撲倒粉碎。心得、寂、智不到三段、智妄寂三関云タゾ。二段妄智ヤンダ處、寂然禪定云ク。修行功極タ故、此段ヲ功極云ゾ。

相似分真兩収、十信・十住・十行・十回向、此段了ルゾ。了レバ、寂智ナリ。寂智、根本智ナリ。首句、玉輪、クルマナリ。玉ハスリミカクニ仍、功処用ゾ。機トワ、真機ノコゾ。寂定、真機ガ、向上卓タゾ。卓スレバ十地・等覺位ナリ。修学功ガ極ツタニ仍、快活笑ナシタ。(9オ)呵々ハ、ヨク笑イソ。是ヲ、智不到、卓処笑云タ。拳處、師對面スルガ、功尽ノ無功主對合心ゾ。微笑、スコシ笑コゾ。句、瑠璃云モ、ミガク物ナニ仍テ、功處ナリ。撲倒、打タラス、トヨメリ。粉碎、二字ニ、クタク、トヨメリ。撲倒粉碎、功処殿上無イゾ。時、无功赴タ。是レヨリ迹五段功処云イ、是ヨリ上三段那叱云ナリ。本位云イ、只夕位云ゾ。行李時ハ、此三段、將軍家沙汰ナリ。爰テ、本位ヲ沙汰スルニ仍、不卓卓云タゾ。(9ウ)六即五十一位、自己・智不到六段極。サテ、那時妙覺本位、空劫、已前、已前自己、沙汰スルナリ。此一段、種々扱多シ。智不到三段終。

(7) △那時最初・那邊

語帶、玄無路、舌頭談非談。師云、无舌人談云。拳、意路不到ノ處ガ、何ノベラレ走ヌ。師云、美當着語。拳ス、子还就父、々全不顧。心得、那叱ハ、本源極則ノ異名ナリ。此三段ヲ宝處云イ、位理云、那(10オ)辺トハ、最初二段云則、自己・智不到・那時云ナリ。向去九段分時、一段ツノ異名ヲ用故、向去九段云ナリ。首句、功間テ用、言語ガ入ル

ゾ。サテ、本位至テハ、言語道断ナリ。玄、本位用字。クロイトヨメリ。功處語ヲ以テ、玄処・本位帶ルニ、何サラニ路ヤリガ无イゾ。本位黒處云ナリ。無分曉テ、アキラメ難イゾ。ホトニ、舌頭ニテ談タガ、更ラニ談無イ。時キガ、无舌人ナリ。舌在コソ、物ヲモ云ウズレ。(10ウ)爰ヲ、至裡一言、十方二亘云タ。ノベ難、本位談話タゾ。故意路不到ノ一處云タ。句、子功主ナリ。尽ノ至主ナリ。父本位至ナリ。不レ尽主ダ。卅年功處テ、粉骨碎身、功極ヨリ那辺到タガ、子功作、修行成就ダ。爰ガ、分真即等覺位タ。此功作以妙覺位住、父相見セントスルニ、父全クカヘリミヌゾ。經尽子尽サヌ、父ト同坐成り難。爰ヲ、尽不尽、諦訛云ナリ。師子父子差別ガ、大事ナリ。アルガ、全クカヘリ(11オ)ミヌガヨイ。ハヤク對面夕郎ニハ、脱脱自ナルゾ。視ヌヲ以テ、本位タモツタゾ。是、向上ヤスリ云ナリ。

(8) △那時ノ中道・至到折角

蒼顔祖父寒坐位、白髮兒孫夜過門。師云、祖父相見。拳ス、師揖。皈。師云、美當着語。拳ス、王ハ居門裡、臣不レ出戸。心得、爰那辺云ナリ。本位那時辺云ノ心ダ。曹洞デハ、傍參修行云テ、直的位指云。亦至尽至字ダ。到、不尽字タ。五位ノ(11ウ)時モ、兼中到トハ、不尽位イヲ云タ。妙覺坐位ナリ。兼中至ハ、等覺位ナリハ、トレハ、中ヲ兼子テ到ナリ。中道ガ、更理巴ガ付ラレヌ一處ダ。首句、蒼顔ト

ハ、本位主ハ、今時風雨サラサレヌニ仍、面色ガアライゾ。位坐ストハ、兼中到ノ黒處坐シタゾ。寒トハ、功處暖処云、本位寒處云ナリ。修行デモ、暖氣ヲバ嫌ウナリ。白髪トハ、児孫、卅年功處デ粉骨尽、仍、頭白ナルゾ。夜ルト物差別(12オ)見ヘヌイダ。門トハ、那辺中、那辺トノ間ダニアル門ゾ。過トハ、中道過キタゾ。時キ、祖父ト児孫ト同坐ナリ。爰ヲ位裡、双對云タゾ。拳處、祖父相見何、合對、揖、マデヨ。揖、腰ヲスコシカメテ礼拜シタゾ。句ハ、王ハ蒼顔祖父ナリ。元來門裡主ナリ。祖父從來門不出云タゾ。臣階級經尽、入門シタゾ。出子ハ同坐ナリ。君ハ、師ノ位イ、父ナリ。臣ハ々、子ノ位、弟子ナリ。ドレモ位裡坐タガ、(12ウ)面底ガ差ウゾ。時キ、至到折角ガアルゾ。此一段ヲ、補處住云テ、爰デ、ハヤ却來ヘキ一氣含ム。サテ、上ヘノ一段、相統出派ナリ。爰ヲ、本空用ゾ。アレヒ、向去ニハ、經尽タホトニ、偏空ト見ゾ。不尽空、佛性空ナリ。

(9) △那叱ノ極則・相統

二頭松鷄卓ニ火燭、師資相逢心法傳。師云、心法傳羊。拳ス、一圓相作礼拜。師云、美當著語。拳ス、根基窄實、血脉貫通。全鎖連環、相統不斷。心得、(13オ)是那時極則ナリ。向去九段終ナリ、檀地ナリ、空劫ナリ。爰ヨリ却來シテ、假位下ルゾ。首句ハ、世尊、迦葉、鷄足洞デ、相統ノ時キ、三更時暗々シテ昏。時キニ、二頭ノ松鷄ガ、火燭含來ナリ。

此ノ火光以、傳授ナリ。是、護法神加護ナリ。師坊主、資弟子ナリ。心法トハ、以心傳心ナリ。師、不出世ナリ。資、出世ナリ。是、入重元門云、オニ儀門云ナリ。方便門ノゾ。假位下、衆生化度ナリ。理即立皈ナリ。心法、一圓相ナリ。心、圓滿ナリ。礼拜(13ウ)ニ口傳アリ。相統已前、弟子坊主九拜スル。傳授了ツテハ、坊主弟子九拜。是、師資礼皈云ナリ。相統、裡頭ヨリ却來、裡頭、本位、空劫ナリ。却來、今時出ゾ。十身調御ノ時キ、正偏知、明行足ノゾ。句、根基、根本也。窄實、真實ナリ。血脉、印可ナリ。貫通、宗派ナリ。金鎖、血脉袋ナリ。連環、圓相ナリ。相統、傳授ナリ。不斷、出世ナリ。如レ此字ニ心ガアルヲ、宗旨一大事因縁云タゾ。是、三世了達御大事ナリ。(14オ)頸カクレバ、閻羅鉄棒ヲマヌカルゾ。修行未熟ノ者ハ、此印可無ニ仍、鉄棒ヲ受ル。一心・一圓相、久遠・今時一致ナリ。引導ニハ、今時ノ火ヲステ、久遠火ヲ以、死人付ゾ。故統松書、タイマツトヨメリ。空ヨリ出テ、今日死空皈、一圓相、空體ナリ。亦假位却來スルゾ。圓頓ナリ。

(10) △却來ノ自己・位程卓側

莫レ守ニ寒岩異草青。師云、異草見捨テ羊ヲ。拳ス、師ヲ背坐。美當著語ヲ。拳、依ニ那辺不レ留、閑田地不(14ウ)レ守。心得、却來ヨメリ。空劫ヨリ今叱、出タルゾ。理即立皈化度ナリ。卓側、出デ派云ナリ。首句、寒岩本位ナリ。

此岩上生夕異草。今時草、変ズルゾ。本位四叱不變ナリ。故
異草云ナリ。此草ヲ守、機、空却沉ムゾ。ソレデハ、断尽路
云テ、假位、出世路ハ、タユルホトニ、守ルナカレト、却
來タゾ。故却來自己云ナリ。異草ヲ見捨時、今時出デタゾ。
拳處、師、本位主ナリ。背、空却ナリ。(15才)今時向ツテ坐セ
バ、却來ナリ。句、那辺ニ住着スレハ、守タヨ。留不レ守不
留、今時却來。閑田地トハ、ツイニ耕耘セヌ田タ。今時田、
春夏ニ耕耘シテ、種子長タゾ。自己心田ヲタカヤスハ、佛
種ヲウエン為メタゾ。万機休罷自己云ハ、自利修行ナリ。自
利ヲ極、向去スルゾ。サテ、却來、假位、下テ、他ヲ利スル修
行ナリ。他モ利了、向去ナリ。吾ガ師家接處受ケタ甲、人接
スルゾ。十牛圖デハ、入レ躰、垂手処(15ウ)ナリ。垂牛トハ、
為人牛ナリ。布袋和尚ヲ、圖出タハ、希袋ハ、衆生ノ根器隨
テ、人ヲ接タ人タゾ。上中下根器化度スルガ、假位當人ダ。
四悉檀時キモ、為人悉檀肝要ト沙汰スルゾ。行李ノ九段ノ時
キハ、此ノ段、村裡底沙汰スルゾ。田夫愚肌エヲ、本分ノ自
性云ナリ。智不到ヲバ、行李ノ時キハ、將軍家ニ扱ナリ。ト
云ハ、功作取郎為メナリ。亦將軍ハ、經尽、君位拜スルギゾ。
サテ亦、那叱ヲバ、一辺ノ王道(16才)沙汰スルゾ。王道ヲバ、
州裡底云ナリ。將軍家デハ、縣裡底云ナリ。田夫ヲ村裡底云
ナリ。

(11) △却來自己中・化度

倒、騎ニ白額、虎、案ニ出衆人前。師云、人前出テ羊ヲ。拳
ス、竹篋以、人接スル模ヤウアリ。師云、美當ノ句。拳ス、
養レ子順不レ得ニ摩摺、棒、要殺喝、要ニ耳聾。心得、却
來ノ自己ノ中段ナリ。モツハラ人、為ニ成タゾ。先白額、ヒタ
イトヨメリ。白額、虎(16ウ)ゾ。出世瑞獸ナリ。本位ヨリ、
為ノ地下、騎レ倒ハ、本位ヲシタウゾ。衆人、假位人ゾ。突
出トハ、タ、チニ出タゾ。人為ナルニハ、形チヲカヘ、行
規カヘテ、サマ、二人根器隨ウゾ。布袋ノ行規ガ、化度ノ
手本ナリ。佛モ華嚴會ノ行規、現前処テハ、人ガ近キ得ナン
ダ。阿含ヨリ方等至、弊垢衣ヲ付テ、説法、度人ガ多イゾ。其
如ク、為ナル人、サマ、ノ行規ヲミダスホトニ、倒騎タモ、
此ノ心ゾ。人前出テ羊ハ、何ント、先沙門、修學道(17才)具ガ、
十八種アルゾ。竹篋ダ。拄杖ダ、拂子ダ。扇子・囀扇、人為
ナル道具ナリ。ホドニ、竹篋トルガ、垂牛ノ心ゾ。句。子、学
者、子ゾ。弟子ナリ。一切衆生皆是吾子心ゾ。養トハ、法味含
フゾ。順、猫、ナデニ長生スルゾ。ソレデハ、佛苗長ゼヌゾ。
摩摺、ナギサルゾ。順行テハ、心田ガ熟セヌホトニ、逆行
ゼデハ。棒セハ、打殺ホド打デハ、喝セバ耳聾。ホドイカラ
デハ。學道、師嚴、本トシタゾ。是ヲ、熱喝嗔拳慈忍辱ト
(17ウ)云ナリ。儼行スルガ、大慈悲手タゾ。最初デ、万機休
罷接処ノツヨイホド、醒處安心ヲ得ルゾ。接處ガヨワケレバ、
田地ニ虫グイシ羊ズゾ。

(12) △却來自己ノ向上・為人悉壇

偏中有^レ正々中偏、流^ニ落^ル人^ニ間^ニ千百年。師云、人間ニ流落^シ羊ヲ。拳、愧^ハカヘリミス、為^ニナツテ走。師云、承當着語ヲ。拳ス、自携瓶去テ沾村酒、[□]却^ニ着^レ衫來成^ニ主人^ト。心得、是、却來自己^ニ向上ナリ。偏、白也、(18才)功ナリ、臣ナリ、假位ナリ、出世ナリ。正、黒也、君也、位也、空位ナリ、不出世ナリ。中トハ、中道、實相也。本位主ガ、偏^ニ。下レハ、偏中ニ正ガアル、偏主ナレハ、本位カ子タトミレバ、正中ニ偏ガアルゾ。如^レ此主ナリ、サマ^クニ、人間ニ流落、為^ニナツタ。流落、ヲチコボル、ヨメリ。千百年、修行ノ功作ツム云タ。喩^ク一年ナリハ、假位アルガ、千百年ダ。濟家デハ、百千年ノ^コモ亦、今羊ニ沙汰スルゾ。曹洞デワ、今日ノ^コナリハ、百年スギタ羊(18ウ)沙汰スルゾ。ト云ハ、科段階級ヘルニ仍ナリ。偏正沙汰スル間ダヲ、功處云ナリ。本位沙汰无イゾ。五位ノ時キモ、偏中正・々中偏・正中來・兼中至・兼中到、五位ニ沙汰スルガ、皆中道兼子タゾ。前へ三位ハ、十信ヨリ十地マデノ修行合スル。兼中至ハ、等覺位ナリ。兼中到、妙覺果滿ナリ。拳處ハ、何^ニ流落^タゾ。物^ニ以^ル旨ガアラバ、人ノ為^ニナラレマイ。ハジラステ、化度セデハ。句ハ、自ラトハ、我^レ云心ゾ。瓶ハ、タルナリ。大善知(19才)識ガ、人ノ為^ニナルニ、吾レト樽ヤ瓶子ナドヲ提^テケテ、濁醪ナドヲ買^テ來タ。亦、衫トハ、衣ヲ付ケテ主人ト成テ、人ヲアイシラウタゾ。是、

人間ニ流落タ^コダ。此心地落^チ付クガ、大事ダ。大方、無修行者ガ、人ヲアナヅリ、吾身托^上スルゾ。真个修学ノ人、吾身ヲスツルゾ。經文ニモ、我不愛身命、但惜無上道、ト云ゾ。佛ケモ、採菓汲水捨設食(本云、捨行生アリ)、ト云タゾ。如^レ此人ヲ化スルガ、天真自性人云タゾ。

(13) △却來智不到最初・禪定三昧(19ウ)

寒炉無^レ火獨虚臥、涼夜無^レ燭到天明。師云、虚臥羊、天明到羊。拳、至嘘兩声スルナリ。師云、兼當着語。拳ス、釣絲午夜拈弄休、風拭^ニ湖光^ニ水月秋。心得、是、智不到ノ最初ナリ。一心ヲ定坐、禪坐ノ正當ナリ。智ハ出デヌ、拈弄工夫、独在當人ナリ。首句、寒炉、一点暖氣无イ、徹底修行ノ心地冷^底。虚臥、僧堂裡独^リ打臥、此叟一辺思入、朽入^タ底^タ。冷夜、灯无、独臥(20才)天明到タゾ。サテ、スゴイ心地デハ无イカ。何^ニ虚臥、何^ニ天明到タゾ。嘘兩声スルマデダゾ。嘘、タメイキ、トヨメリ。如^レ此坐禪一辺ノ心地デ无、生死事大、无常迅速、旨ニハ叶^マヒ。寒ニ云テモ、紙衣一丁タノミダ。佛道ニ苦^清苦云ナリ。世辺苦^濁苦云タゾ。沙門名利ステ修行セズンバ、鉄棒招ウス。句、釣絲、ツリイトノ^コダ。午夜、昼夜ナリ。釣絲ナゲ打云ハ、心叶^心莫^ヲ釣^為タゾ。アルガ、トツト寒苦セメラレテ、釣絲ヤン(20ウ)ダ。况^ヤ拈弄工夫ヤンダ。此ノ心地、天真独朗人云タゾ。風、出息入息^コダ。湖光ハ、心地ノスミ切ツタ意光^コダ。拭^ト云ハ、雲

ヲ佛ツタ₁ダ。時キ、身心ガ水月₁如ナゾ。水清淨水ナリ。月心月ナリ。一₁卓クモリ无ク、独朗ナゾ。秋トハ、四時ノ中デモ、熟トキナリ。熟トハ、修行純熟ナリ。亦月秋ガ十分ダ。十分ノ月トハ、心月圓滿₁ダ。圓滿ノ心モレタ₁ハ无イゾ。五十位修行、智不到三段₁キワマルゾ。清白圓(21才)明₁地₁云ナリ。真淨一色₁云ナリ。

(14) △却來智不到中道・鳥道

月船不₁犯東西岸。師云、不犯舟。拳ス、忘然トノ坐₁ノ五尺境界ガ、舟デ走。師云、兼當ノ着語ヲ。拳、君臣偏正ヲ以謂、不₁欲₁犯₁中。心得、中道トハ、智不到中段ナリ。爰ガ、万事功夫入地ダ。自己ニモ、那時ニモ、中道タゾ。爰ヲ、鳥道云タゾ。鳥ツバサノ兩翼ハ、向上向下ノベタゾ。月、心月ナリ。舟ハ、五尺ノ境界ナリ。東(21ウ)西、久遠・今時ク。不₁犯トハ、中₁の本分₁ノ浮タゾ。犯セバ偏落、正落ゾ。未正當舟ト云ハ、坐禪正當傾ヌ₁ダ。爰ガ、天真独朗自性本分タゾ。爰、何₁ノベラレヌ一處タ。ホトニ、只タ忘然坐タガ、独在當人ダ。独在₁吃キカ、不₁犯ナリ。不₁犯ノ吃、虚舟ナツタゾ。句、曹洞文章云ハ、君臣二ツガ、偏正二ツタ。黑白、空假二ツ、久遠・今吃、向上・向下タゾ。此中道、犯サレヌホドニ、中₁的不犯處₁ヲバ、君臣偏正(22才)以沙汰スルゾ。是ヲ傍参修行云タゾ。四十九年、權實說タガ、中道一字不說ナリ。通不犯云モ、此一段ノ₁ゾ。故、五位共ニ、中ヲ兼ヌタゾ。

即今、善惡不二、邪正一如ナリ。天人地三際モ、人心ハ、中道ナリ。心云ガ、何₁ノベラレヌゾ。此一心悟ラン為、五十二位科段階級ヲ立テ、妙覺本分一心至ラン為タゾ。万法一如法身明ムルガ、中道独在當人ナリ。

(15) △却來智不到ノ向上・功極(22ウ)

玉馬吞乾明月泉、泥中牛耕破瑠璃地。師云、吞乾羊、耕破羊。拳ス、何₁モ云ウズ₁ハ走ヌ。師云、兼當着語。拳、凡聖脱尽意皆空ナリ、有佛處不₁用₁邀遊。心得、是、智不到向上・功極云ナリ。迹、七段デ、尽ク功尽、此段、功₁キワマリダ。爰ガ、十地等覺位ダ。首句ワ、玉馬、功主ナリ。明月泉モ、功處ナリ。吞乾、功₁无イゾ。泥牛モ功主ナリ。琉璃地トハ、玉スリミガクニ仍、功處ナリ。耕破、(23才)琉璃地无イ。吃キガ、功極ナリ。功極、功沙汰無イ。吃キ、无功本位、爰デハヤ沙汰スルゾ。故此段不点々心得ナリ。ホトニ、吞乾羊、耕破羊云、何₁云₁アル間ダハ、功處。一言羊句モ云ズ₁ノ无イコソ、功極ヨ。句、凡聖沙汰スルハ、功處。脱尽、ツキタ₁ダ。凡聖脱ツクセバ、功極ダ。意皆空ナリ(畢竟)。無功空處趣、空品アル。拂ミルハ、断空ナリ。ソレヲ、頑空云ナリ。尽₁空ミルハ、偏空ナリ。二乘見解(23ウ)ナリ。サテ、不尽ノ空云ニ、拂尽スゾト云₁ハ无イ。元來本分空ナリ。是ヲ、本空、真空云ナリ。有佛地、功處、佛祖位中云ナリ。邀遊、アソビサマヨウ、トヨメリ。其佛地門中アソバ子バ、功

極ナリ。時キ、本覚位ナリ。爰デ、ハヤ妙覚ノ位沙汰スルヲ、功デ位見ニ云タゾ。濟家デハ、万法上デ、不侶底人ヲ見タコゾ。万法、功處ナリ。不侶底人、本分空却誰ナリ。誰本分現成ミルガ、万法一如ナリ。將軍此(24オ)地至、君命ヲ象ゾ。惣別修行粉骨碎身地云、智不到三段キワマルゾ。自己最初、一句契當、那時、空却已前本付仍、言語道断ナリ。ステニ智以ハカル間ダノイデハ无イゾ。愚智接、本分真智本付セン為ナリ。

(16)△却來那叱最初・孝滿處

掲ニ開金鎖一看ニ裡頭、陰々風光本自異ナリ。師云、風光ミヤウヲ。挙ス、師背立屏風開、ヤラ(24ウ)面白ヤク。師云、美當着語。挙ス、須知雲外千峰上、別有灵松帶露寒。心得、是那叱最初ナリ。那辺云、亦孝滿處云ゾ。首句、金鎖、最初中段ノ間ダニ立関門ナリ。掲開、ハシヒラクナリ。裡頭、中段ノ本位ナリ。陰々、シノメノ天ノコゾ。誰、叱キナリ。風光、本位風景。本、元來ナリ。自トハ、天然ギゾ。異、別。功處デ、廿年粉骨尽ノ、等覚マデ修尽ノ、妙覚最初至テ、金(25オ)鎖掲開、本位景色ヲミルニ、功處デ見風光、コツキト別ナゾ。スラヌ景ナリ。挙處、本位主ナリ。背、中段位ナリ。屏風、金鎖ナリ。掲開、ヤラ面白ヤクト云處、功處景、異ナゾ。句、雲変色アルニ仍、功處トル。外、無功ナリ。上トハ、最初ヨリ一重上ヘノ段ナリ。故、最初上云心ゾ。爰ヲ孝滿地云タゾ。灵松ハ、灵木ナリ、不変ナリ。

露帶寒クメ、千峯ノ上リニ有郎ズト推量ナリ。直キニア(25ウ)リトヨメバ、推圖ガ定ゾ。有ラントハ、定ア郎云ノ心ナリ。千峯、フモトナリ。木山ヲバ、孤峯云タゾ。青山云タゾ。功處ガ、仁義五常ヲ但スヤウニト云心ゾ。本位、不孝ナリ。故、孝滿地云タゾ。孝ミツレバ、孝沙汰无イゾ。

(17)△却來那叱中道・寶主不到

重幃勝負休、金殿臥清風。師云、勝負ノヤ羊ヲ。挙ス、花合、草合サヘ走ヌ。師云、美當着語。挙ス、機尽功忘恩儀断、便成(26オ)不孝闡提人。心得、寶ワ、学者ナリ、臣ナリ、子ナリ。主、師ナリ、君ナリ、父ナリ。不尽折角、此一段アルゾ。首句、重幃、幔幕、幃帳裡重子タコゾ。金殿、主坐位ナリ。勝負云テ、何ニモ戦无イ。此羊殿内住人、春花合セ、秋虫合セ、草合ダ。ソレモ、今止ンデ、金殿、清風ソウクト吹キ送タマダダ。人影ミヘヌ。爰、臣主相忘古殿寒イ、ト云タゾ。爰ハ、王道デハ、當今御坐ナリ。修(26ウ)行功沙汰无イ。王化徳用旨モミヘヌ、只夕境地バカリダ。爰ガ、王道サカンナダ。挙處、花ガ在テモ、相半ガ无イ。サテ、サビテ氣高古殿デハ无イ。句、迹、七段、等覚位マデハ、仁義五常ヲモツハラトスルゾ。此一段、機尽功忘、何沙汰モ无イ、恩儀不到ダ。此地至人、不孝底人云タゾ。闡提、外道名ナリ。此外道、孝養知ラヌゾ。孝滿・功極人、宗旨、闡提人云タゾ。亦妙覚本位魔境云ゾ。何(27オ)ナレバ、

仁義路絶ホドニ、句、佛界易レ入、魔界難レ入、ト云タゾ。
空劫本分田地入難ゾ。ト云、佛祖唱、無イ処ナリ。

(18) △却來那時向上・仙境

透ニ過那辺ニ看レバ、猶有ニ出身路ニ。師云、透過羊ヲ。挙ス、
師背、過嘘兩声スル。師云、美當着語ヲ。挙ス、仙家不レ會
論ニ春夏ニ、石爛松枯是一年。心得、是、那時向上ナリ。
爰、仙境比スルゾ。仙境、人間不到處。空劫已前、仙境云タ
ゾ。却來、利他(27ウ)修行ナレト、他ヲモ利ノハ、亦向去ス
ルゾ。他人亦却來人化スルキゾ。故、回互宛轉環、如无、端云
タゾ。回互トハ、タガイニ回ヨメリ。宛轉、住着セヌゾ。
環キハ、圓頓ナリ。端无イトハ、クルリくト桌ズルコゾ。
向去ノハ却來、却來亦向去スルゾ。久遠ヨリ出テ、亦久遠皈
ゾ。一圓相ナリ。首句、那辺トハ、中段トゾ。透過、極則処
スギタ。是ヨリ上ハ無イ、ト思ウタレバ、マダ出身路ガアツ
タヨ、ト知ナリ。極則出(28オ)身ナリ。サテ亦、極則ノ處テ、
出身ミル則、却來、今時出身ナリ。在所ヨツテ、扱イガ別ナ
リ。是、ツメ派ナリ。挙処、師空体主ナリ。背、已前リ。爰
ヲ、嘘兩声ワ、サテ窮源无イハ、トコガコヤ郎、更方處モ无
イ処ト、タメイキツイタゾ。ゲニモ修尽者ガ、仙境ナドヘ至
テハ、万事興サメ面デ在郎ズソ。空劫已前自己、爰く。句、
人間世デコソ、春夏ノ四季ヲバ論ズレ、仙境ニハ、人世四季
入ラメ。石ガ爛(28ウ)松枯、一年云ゾ。人間ノ百年以、仙家

一年トシタゾ。爰到、本無契當云タゾ。無ト云テ、拂タコデ
ハ無イ。本无ト云ハ、心无ナリ。元来有無落ヌ一心指、本无
云ナリ。濟家一機禪、皆断無落ゾ。專洞禪、本無契當ナリ。
本无當着スルヲ、本源自性天真佛云タゾ。曹洞、立入ホド、奥
无イ、明ムルホド、クラヤミニ入羊ナゾ。ゲニモ、兼中到、黑
処本付故タゾ。冥処云、本分本无ナリ。却來九(29オ)段終。
サテ、行李、修行餘氣ヲヌケタ心地ナリ。

(19) △行李九段始・自己・村裡底向去

百姓日々用不レ知。師云、村裡當人不知満足。挙ス、和尚何
セラレ走、聞キ知り申サヌ。師云、美當着語。挙ス、昨夜清
雲殿上人、今朝皈來弄ニ泥團。心得、行李云、仏法餘氣ヌ
ケタ修行ナリ。白地凡夫肌エニ落付タ。九段此心地ナリ。此
段、自己村裡底云ナリ。村裡、田夫トゾ。正月(29オ)朔日ヲ、
州裡云テ、王法祈禱スルゾ。二日、縣裡底云テ、天下將軍祈
禱ナリ。三日、村裡底云テ、民百姓祈禱ナリ。昔王三人王子、
一人ハ国土王作、一人將軍ナツテ、国土太平、一人村裡下
五穀作、三人カ三裡ヲツカサドツタ。村裡云テ、賤者デ无。
ドレモ王子ダ。空位ノ主ガ、假位下、衆生ヲ化度スル心ゾ。
首句、刹・婆羅・毘舍・順隄、四姓ヨリ一ツノ姓出タ。ソ
レヲ、百姓云タゾ。百姓用ニ日々(30オ)ト云ハ、明ケモ暮レ
モ耕スコゾ。アレト、艱難知ラヌ、此肌エヲ、休罷・醒處・
安心ト、三段分ケタゾ。一句契當処、白地凡夫ニ落付タ。爰

ヲ、不知満足人云タゾ。トキンバ、村裡肌が高。句、昨夜トハ、本位ヲ云ゾ。空位主、今朝假位皈来、泥ヒキ水ヲ帯ビテ、ドログルミニナルゾ。是ヲ、学者心田ヲタガヤス、ト云タゾ。下デ、為心田ヲ耕ズレバ、佛法種子長ズマイゾ。村裡、スキ鋤トルガ、行李タゾ。此肌ヲ、自己(30ウ)本分ト云タゾ。是ヲ、法眼宗ノ自己ト云ナリ。清凉大法眼、清凉國王子。打頭當派ガ、トツトハゲシカツタホド、一句白地心地落着、御代カタブツカヌゾ。尽十方一顆明珠スワツタゾ。自己以、空劫已前自己叶タゾ。吃キガ、本来面目、本分現成タゾ。天真自性スワリ派云ハ、白地肌エ云タゾ。

(20)行李自己中・村裡醒處

五帝三皇は何物ゾ、稼穡艱難捨不知。師云、王化ヲモ知ラヌ肌。(31オ) 挙ス、掘井呑田耕食走。師云、羨當着語ヲ。挙ス、太平事業无象、野老家風至順タリ。心得、是、自己醒處、中村裡ナリ。五帝、少昊・顓頊・高辛・唐堯・虞舜ナリ。三星、伏羲・神農・黄帝ナリ。ドレモ、有道本有太平ナリ。此御代デ、三日一兩デフレカシト思ヘバフリ、吹カシト思吹タ。此羊ナ徳用・王化ヲモ、は何物ゾト知ラヌ。稼、春タカヤスヲ云タ。穡、秋収云タゾ。艱難辛苦ヲダゾ。ソレ(31ウ)ヲモ不知、王化カタジケ無イト云ヲモ不知、水ガ无、井ホツテ香、米ガ无、耕作食タマデヨ。是ヲ、前太平云タゾ。句、太平、六ツカシキヲ无イヲ云タ。无事ニ何ヲモ无イ、

象カタチトヨメリ。乱ケキノアルガ、天下象チタ。太平仍、象无イホトニ、野老・山老ノ家風ユタカニ、物ヲ至順、何ンデモ逆ヲ知ヌ、此肌エヲ、衲僧本分云タゾ。サテ、自己行李デハ无イカ。

(21)△行李自己向上・村裡无事(32オ)

百花繚乱可被笑、比来天地一閑人。師云、閑人作羊。挙ス、次郎、アノ花折コヨ。師云、羨當着語。挙ス、昨夜睡眠何処用ゾ、蓑衣猶帯野花香キヲ。心得、是、行李自己向上・安心処ダ。村裡、无事心地ダ。首句、繚乱、花ミダレタ底。百花笑ル、ホドノ肌云、无事无行李无テハ、修行功作尽、心身安居、遊山翫水マデダ。閑ハ、イタヅラトヨメリ。佛道行行沙汰絶。(32ウ) 天地一閑人ナリ。月伴无イ、花伴ツテ、向上行李タゾ。亦、田夫村裡モ、スキクワ打ステ、花愛スル肌云、太平无事、耕走ス、吃キハ時節ステ又行李ダ。色ヨキ花見テハ、次郎、アノ花折、トコニ艱難知コソ。句モ、朝ヨリ暮耕、ヤウヤク月モ出行キカ、リ、次第打眠。此心地、艱難在コソ。蓑衣花香ヲ帯タ。サテ、日出度民姿デハ无イカ。此肌、佛祖唱、沙汰在テコソ。(33オ) 衲僧安心肌モ向ヨ。无為无事閑道人デハ无イカ。行李自己向上・村裡終リナリ。

(22)△行李智不到最初・入派・將軍

帝城勅展則、每持尊言三閣。師云、將軍威風。挙、声巨海飛走。師云、声飛羊。挙、籌運帷幄中、勝

決ニ千里外ニ。心得、將軍入派・出派差アリ。出派トハ、三人ノ王子、一人縣裡下云ゾ。是、高將軍ナリ。入り派、（氏カ）家功作（33ウ）天子ヲ拜スルヲ云ナリ。ソレハ低。此將軍、功作、蓋代収ゾ。將軍功作、学者粉骨碎身修行比スルゾ。智不到、三段、独在將軍令沙汰スルゾ。首句、帝城、天子ノゾ。勅、天子武家ノブル言バヲ、勅言云ナリ。尊言、天子勅定以、国家収。三閣トハ、箱ミヘニ入テ、綸旨ヲ頂戴スルナリ。是ガ、將軍譽。威風威勢、巨ハ、大云字ダ。大、巨云ヨメリ。大海、將軍言云々出、（4）四大海（34オ）飛ブト云ハ、ヨク威言ヲソレタトダ。句ガ、声遣セ羊ガ、籌ト云ハ、謀畧、トダ。帷幄中ハカリト云タゾ。勝、大、大海至マデヨク収タトダゾ。叱キ、千里外決タトヨ。天下ヲ収、將軍行李タ。衲僧、卅年功作以、我国安全旨行、行李タゾ。是、智不到入派功ナリ。

(23) 行李智不到中道・汗馬功

乘ニ肥馬、披ニ輕裘。師云、汗馬功作シ羊ヲ。拳ス、六国強敵ヨク収メテ（34ウ）走。師云、美當着語。拳、太平扶、佐天子、卒土鎮ニ安民姓。心得、是、智不到汗馬功云ゾ。將軍、血汗駒乘、天下収仍、汗馬功云ゾ。首句、肥、コユルトヨメリ。ヨキ馬、トゾ。裘、カワ衣モトヨメリ。狐千疋毛、以、ウヘゲニスルヲ、狐白裘云ナリ。將軍モ、万騎大將デ無、狐白裘救ヌゾ。一疋兩刀云、ヨキ物具ニ丁脇キ挾者ゾ。六

国、漢・魏・燕・趙・齊・楚定、六朝云ナリ。秦、始皇帝一人、六朝ヲ収ナリ。爰テ、六国云ハ、六根、トダゾ。六賊ヨク収ムレバ、我国安全ダ。時（35オ）キ、心王城ソ、ケヌ。心王城ヨク収マルト云ハ、万機休罷ノ端的デ、六塵不到安心到。時、智モ不到ナリ。不到ノ心地コソ、正覺佛ヨ。六塵不、惡、还同ニ正覺、ト云タゾ。句、太平云、ニヤウアリ。前太平、始、乱逆知。サテ、乱後太平云、収、無夏云ゾ。爰、乱後太平ナリ。乾坤發乱見、太平ト云ハ、此段、トゾ。將軍、太刀柄、バカリデハナラヌ。文武、ニ達セデハ。天子、扶佐申シ、卒度、民百姓ヲモメグマ子バナラヌ。民ミガ、天下太平モトイタゾ。外典物本、民収、肝要云タゾ。沙門（35ウ）修行黑白分テ、是非決断、名道云タゾ。將軍汗馬功以、衲僧卅年功作比スルガ、智不到中道行李タゾ。サテ亦、天子、民姓ヲモカ、ヌト云ガ、中道独、令ナリ。独在居セズンバ、上下ヲバ収メラレマイゾ。君臣・偏正落チヌ中道、智不到ノ行李云タゾ。サテ、汗馬ノ功デハ無イカ。

(24) △行李智不到向上・功極將軍

功成、不、處、電火難、追。師云、功成、行李。拳ス、漁父樵父樂デ走。師云、美當着語。拳、一戰功成早、制、身、釣（36オ）竿輕動五湖雲。心得、將軍ノ功極、智不到向上行李。功成云ハ、大功成就人ダ。不、處トハ、功卓位付タトダ。此、卓、ハヤクスルガ、電火ヒツカトセヌ間、トダ。曹洞閃電機、是ナ

リ。大功成就行李、漁人樵人マシワリニシクハ無イ。衲僧修行功成テノ行李、漁夫樵夫肌。入山薪トリ、海入アミヲ引。是、毘尼戒修行云タゾ。爰、已前本分自性。將軍天下収、マキガリヲシテ、国神祭。句、是、范蠡ガトダ。呉越タカイニ、誉(36ウ)名長、功成名遂身退、天道也云テ、小船棹指、五湖遠嶋引コンダゾ。サテ、大功成就將軍デハ無イカ。始渭水釣垂居時キハ、用処アルニ仍、釣竿ガ重動タゾ。サテ、隙打明ケテハ、用処ガ無イニ仍、輕動タゾ。如此世上見キワムルガ、將軍行李ダ。衲僧一度功成タルケルガ、則身退キヤガ、入院処アル、退院タゾ。濟家、最初末後ミルハ、是ナリ。爰ガ、十地已上等覺位ナリ。功極処デ、ハヤ位沙汰故不点云ナリ。六即デハ、相似分真兩即ガ、功極也。究竟、(37オ)印可相續ナリ。印可ガ、妙覺果滿位ナリ。功極ハヤ印可合ガ、功位見トソ。印可来氣也。

(25) △行李那時最初・王道不点

積代簪纓者、休レ謂「落魄時キ。師云、謂「ヤメ羊ヲ。挙ス、至処ガ王成デ走。師云、美當着語。挙ス、當処即是法王城。心得、是三段、王道沙汰ナリ。是、王道不点ト云ナリ。首句、積代、代ガキラヌ王位トダ。簪カンザシ、纓カシムリノ緒ナリ。項下莊束トゾ。落魄トハ、ヲチコボレタトゾ。(37ウ)王位ナレト、時仕合仍、東土ハテへ流落トモアルゾ。アレト、元来アレコソ、積代王子ヨ、トミレバ、

落魄タトバシ、謂「ヲヤメヨダ。ドコナリト、君坐処、王城、九重都ナリ。ホドニ、王道不点云タ。ホドニ、句當處即王城タゾ。○君住バ爰モ雲井モ四座ノ浦天橋立都ナリセバ、ト云モ、向ゾ。是、天子丹後国切戸文殊参詣時キ、天橋立云処デ、供奉人詠歌ナリ。ドコナリト、君スム処、法王城タゾ。天橋立都。一片王化デ、ドツコモ都ダ。爰、万里長城一条鉄云タゾ。一片(38オ)城都トゾ。王城云ハ、心王城、空体、本分住処ナリ。ドコカ、此一心作畧ナラヌ処、在テコソ。万法一如ミレバ、皆空体一圓相ナリ。此空心ガ、亦假位下、村裡王子下一。法身ガ報身ナリ、報身應身ナツテ、人化度スルゾ。三身一身ナリ。一体分身コソ、一圓一心。百億分身処々真也。如レ此安着スルガ、王道行李、王位至、衲僧本分行行李トゾ。五十二位經尽、威音王戒至ルゾ。

(26) △行李那時中道・王道本分(38ウ)

天然貴胤本不功。師云、天然主。挙、爵持黙々。坐。師云、美當着語ヲ。挙、徒來祖上作「君主、子子孫々代々昌ナリ。心得、天然、自然ギナリ。元来ヨリノ王位、貴胤、タ子ヨメリ。王子、元来王タ子ダ。功云、經尽ヲ云、是、貴胤デ、ツイニ經尽サヌ。誕生朝タヨリノ、爵持ノ天下ノ政ト正シク、内紹君ダ。句、從來、ムカシヨリノトゾ。祖上トハ、先祖トゾ。三皇五帝迹紹キ来タゾ。君王デ子子孫(39オ)々マデ、代々昌ンナゾ。ツイニ外紹无イゾ。外紹トハ、王子ガ无

レバ、臣下子取、王位ニソナユルソ。其、キ、鳳凰池水ヲ汲
ンデ、王子ソ、クゾ。是、外紹君ト云ルゾ。サテ、内紹云ハ、
鳳凰池知ヌ故、法王傳ニ天位、鳳凰池不汲云タゾ。貴胤
デ、内紹スルガ、王位行李ダ。国土王ナレト、凡夫界ヨリ。
サテ、沙門、修シ尽、妙覺位至レバ、威音王戒ナリ、佛戒ナリ。
法王従前佛、従前ナリ。此故ヘニ、世尊モ王位ステ、採火
汲水修尽、(39ウ)三界大道師ナツタゾ。名利本セバ、一世佛
果得マイゾ。我不愛身命、但惜无上道ガ、沙門ノ行李ナリ。
威音王本分叶ガ、衲僧極則行李タゾ。此行李ヲ得ズンバ、亦
理即立販リ、假位却來、衆生化度セラマイゾ。

(27) △行李那叱極則・王化徳用

徳合ニ 乾坤一育勢隆ナリ。師云、乾坤叶羊。拳云、春生夏長
秋收冬藏レテ走。師云、承當著語ヲ。拳ス、春青陽タリ風氣
温和、(40オ)秋白象タリ風氣清涼タリ。心得、那叱ノ極則云
至テ、何ニモ云イコハ无イ、王道デモ祭コノ沙汰无、王化徳
用バカリ沙汰タゾ。是ガ、王法行李タゾ。徳トハ、四叱ノ
令ノ差ハヌヲ云タ。天公ノ令、国土令、一ツタゾ。徳カ、乾
坤叶ズンハ、国土メグマレテコソ。育、ヤシナウトヨメリ。
乾、天也。坤、地ナリ。天地万物ヲ生ズル如ク、民姓養育デ
ハ。養育スル王ハ、中道主ナリ。主、心ナリ。万法ワクル一
心ナリ。心ハ、父母ナリ。養(40ウ)育、子ナリ。万法、天地
養育ナリ。故、春ハ万物ガ生シ、夏枝葉長、秋實ナリ、熟收

ルゾ。冬万法ガ根カクレタゾ。根トハ、根本空体販コゾ。走
アルカトスレバ、亦春一陽生スルゾ。是カ、却來ナリ。四叱
ノ相續ガ、宗門向去・却來ナリ、一圓相。句、春ヲ司ヲ、
青陽云イ、秋ヲ司ルヲ白象トハ云ナリ。風氣万物ヲ生長スル
ノ和氣ナリ。是ガ、王法ノ育勢サカンナコソ。四叱令ノ差ハ
ヌコソ、乾坤叶タ徳用デハアレ。此ノ段ヨリ亦(41オ)一氣生
スルガ、子孫断絶无イコヨ。ホドニ、圓頓修行云ハ、クルリ
トト点ゼ子バ、種子ヲ絶スルゾ。是ガ、行李九段ノ終リナ
リ。

私云、只ダ三位バカリ扣ク則ンハ、自己モ、智不到、那叱、
師家ノ手ガラホド、古則引入扣クナリ。ソレハ、独則扱ナリ。
サテ、三位首句、三九分則、一段ノクデ、修行村ヲヌキ、
功作知為タゾ。亦九ツノ首句、廿七分、夜參廿七夜ト云タゾ。
向去ガ(41ウ)九段、却來ガ九段、行李ガ九段デ、三九廿七段
ナリ。○廿七段五位ツ、メ、五位三位ツ、メタ。三位一位
ツ、マルゾ。一位空体ナリ。大陽玄十八般妙語ヲハ、向去九
段、却來九段ナリ。行李、向去九段中含ゾ。宏智和尚八句、
前四句向去ナリ。後四句却來ナリ。廓庵十牛ハ、八牛向去、
一牛、裡頭却來ナリ。入、鬪垂手、却來ナリ。曹山八圈妙
語、七圓、向去也。一圓却來ナリ。石霜(42オ)七去、六去向
去ナリ。一去、却來ナリ。曹洞宗、向去・却來分段ノ夏数多
在レ之。ヨクノ參ズベシ。ドレモ廿七段ヲヨク極ムレバ、一

位ナリ。(42ウ)

右此書、曹洞宗秘参ナリ。永平室中不出参人ナリ。末派、三位扱イサマアレト、此ノ筋目参得智識、マレナリ。越前ノ国宅良開山天真四派、希明派、此参得流布スルヲ以テ、山僧濱傳授スルナリ。鹿子派无。野僧隱遁砌、山門三院執行探題大僧正天海大和尚位、依御望、不願法罰、書奉寄附東照宮大権現宝蔵者也。私云、タトク顯密禪云テ、禪用濟家(43オ)禪一機禪、一句ノ宗風ナリ。故五十二位科段階級逢ナシ。曹洞修行、階級立仍、顯宗用實正ナリ。殊永平開山、天台教家ヲ極メナガラ、曹洞密意ヲ弘玉ウナリ。至今永平十二屹勤行、顯宗ノ古法ヲ不捨、顯ヲ知ラザル曹洞、永平派下アラス、亦曹洞ヲ不知顯、天台末裔アラス。顯密禪一致ノ根本極メバ、自立他破見解ヤメテ、本源尋ヌベシ。何レモ佛心(43ウ)宗ノ極位不二ナリ。殊更永平、祖教不二建立シ玉ウゾ。下聞耻ス、學道ヲスベキ人、名利ステ、学スベシ。名利全ク冥土タヨリニアラス、現在果報ナリ。捨身修行、後生善處ノ種子ナリ。怒ク名利ステベシ。名利ニハ、鉄棒招ゾ。無用一筆ナレト、法ヲ惜仍誌之者ク。

于屹寛永十癸酉(一六三三)秋初吉日勅不染道人謹誌。

于屹寛永十八(一六四一)辛巳八月吉日 豪清書之(44オ)

(終わり)